女學雜誌

一冊六錢

各土曜日發兌

第百八拾七號

當府內無郵稅

郵稅五厘

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 187. NOVEMBER 16TH, 1889.

第百八十七號目錄

EDITORIAL:—Influence of Theatre.

LEADING ARTICLES:—On Family State of Civilized Western Communities. (A. Kobayashi).

CRITICAL NOTES:—Kōyōsanjin's "Koi no Yamagatsu." (Fuchian). "American Commonwealth." "Seishin-Keibi."

MISCELLANEOUS:—True Matrimonial Love. Modern Writers. Origin of *Sugurolcu.* Three Great Novelists of *Genroku* Age. Anecdote of Fox.

NOVEL:—"Sumire." (Wakamatsu Shizu)

OPEN LETTERS:—In behalf of the Editor of Jogaku Zasshi. Queries.

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.

社説　演劇上の感化

論説　歐米文明世界に於ける一家の狀態を論ず（小林愛軒）

批評　紅葉山人の「戀山賤」（不知庵主人）○平民政治○精神啓微

雜錄　眞の伉儷○近体文章○雙子の原因○元錄の三大家○フォックスの逸事○漫錄（仁田桂二郎）

小說　すみれ第四回（殘り香）

開書　女學雜誌記者に呈す○交詢

時事　滿目凄慘○眞正の紳士○戸々鷄鳴を聞く○速記法○女子法學博士○決闘條例○小西湖○洪水の迹○政黨を解散せよ○彼の鰥醜人○監獄改良○牢內の光○大日本教育會

女報　行啓○華族女學校生徒○女子職業學校○女子獨立女學校○高等女學校○歸朝來朝○橫濱義捐會○女生徒の結髪○山口師範學校女子部○山梨英和女學校○看護法教授○純然男女同等○ウイラード女史○グラッドストン氏の令孃○一千圓○女宣教師○佛國下院○天竺○娼妓全廢會○ウイラード自敍傳

WOMEN IN JAPAN.

(1) *Her Imperial Majesty the Empress invited the daughters of Marquis Tokugawa, Viscount Sugi and Baron Takasaki, who attend the Nobles' Girl School, to Awoyama Palace, on the 5th instant, and showed them pictures and other things.*

(2) *Her Imperial Majesty the Empress Dowager visited the Fine Arts' Show at Ueno on the 8th.*

(3) *Certificates were delivered to the graduates of the "Industrial School for Girls" at Hitotsubashi-soto, Kanda, on Tuesday, the 12th, and the articles made by the girls were exhibited and sold to the visitors.*

(4) *In the Girls' Department of Yamaguchi Normal School, it was determined to include henceforth sericulture in the school course.*

(5) *For the benefit of the sufferers from the flood in Wakayama, Nara and other provinces, a musical entertainment was held on the 9th inst. in the Ferris Seminary, Bluff, Yokohama. The entertainment was highly successful.*

(6) *The Yamanashi Ei-wa Jogakkō was opened on the 2nd inst., and Principal Niiumi and Miss Principle made addresses.*

(7) *The Independent School for Girls at Yotsuya was opened on the 7th inst. Mrs. Kato is Principal.*

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

人はいねて　月すめり
しもは置て　そらさびし
きこゆ一ッ聲　いとたかく。
友はいづこ　うせつらん
つまはかなし　射とられぬ
さびしこひし　雁はなく。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百八十七號
明治二十二年十一月十六日發兌

社説

○演劇上の感化

末松青萍君一と度び演劇改良の説を主唱せらるゝや、天下靡然として風和し、上は何の宮殿下と云ふ御方より、下は豪商紳商役者藝人を通して、各學校中一種の書生に至る迄で皆贊成したり。之が爲めには外山、山君も演劇改良私論と云へる名案を出版せられ、依田百川君、高橋准亭君等も改良脚本に用ゆべき三四の台帳をすら著作ありしに、其後此の明案と、此の議論と、此台帳とを實地に試むべき改良したる劇場中々に出來せず、一時は殆んど立消たるやと迄でに思はれしが、只だ僅かに演藝矯風會、改良演藝會等實地に永續して、其氣運を万斤一髪の躰にて支へ來り、形勢極めて覺束なかりしに、政海の暴風福地源一郎氏を病人となし、彼の多才多情ある櫻痴居士をして飜然演劇改良の壇上に出現せしめたりしかば、總べての失望辛ふして散じ、希望茲に復活して現に歌舞伎座と云へるもの落成するに至りぬ。昨日は即はち其開場當日にして、演劇改良の論者が初めて口を開けたるの日なり、吾人亦た彼等の爲めに之を祝す。

然れども之を吾黨の爲に祝するとは未だ爲し易からざる也。抑そも此の歌舞伎座なるものは、演劇上に於て果して何程の改良を爲し得たる乎、其改良にして、若し吾黨の理想する程に達し居らば吾人は則はち衷心より祝すべし、然れども若し其改良なるものにして從前の仕來りを去ると甚はだ遠からず、たゞ外形上に於て一二の變狀を呈したるのみに止まる時に於ては、吾人は未だ全心を擧て之を祝するに堪へざる也。抑そも彼の如きか此の如きか、其實際果して何如んと云ふは、其演劇を實見したる后にあらずんば承知しがたきと也。左れば吾人は未だ之を承知せざるの以前に於て。先づ演劇と云ふと、次に改良演劇と云ふとに付きて一二の意見を吐露し、切に吾黨諸君の注意を請ひ置かざる可らず。

第一、演劇は見物して宜しきものか否やと問ふべし。此の問ひを出すときは必らず二種の大ひに驚ろくものあらんと思はる、一は尤も嚴格なる宗教家にして一は尤も通俗せる諸君なり、其の宗教家は忽まち吾人を睨らみ、女學子たらんもの何故に左樣明白なる問題を問はるゝやと云ふとあらん、而して一方の通俗せる諸君は亦忽まち笑ひ、女學雜誌記者果して

例の偏屈を言ふと嘲けらるゝヿあらん。二者の如此く此の問題を輕んぜらるゝは、此問題の甚はだ明白にして殆んど議論するの價ひなき程に思考せらるゝが故なるべし、即はち宗教家は無論演劇あどを見物す可らずと斷定し、世俗者は之を見物するの可なるヿ勿論なりと覺悟し居らるゝの故なり。嗚呼此問題は定めて二者に取りてハ平々易々たるものならん、然れども心甚はだ嚴格ある宗教家を愛し、身特更らに落ちて世俗の間だに流浪する、例せば吾人女學雜誌記者の如きものには、左様に明白の問題にあらず、敢て一論を試ろみ、其見物の可否を議するの必要ありと思はるゝ理あり。

抑そも今の世は何如ある世ありや。漢學者は之を澆季と云ひ、佛者は之を末世と云ひ、耶蘇教家は墮落界と云ひ、進化論者は之を進化せしむべしと云ひ、社會改良論者は之を改良すべしと云ひ、矯風家は之を矯正すべしと云へり。言ふ所ろ樣々ありと云へども、其の現世を不善なるものとして、之を改進するの必要を感ずるに至つては皆な同一なりと知るべし。然らば何如にして之を改進すべきやと云ふに、其意見千種、其方法万態なりと云へども、茲に其尤とも至當、尤とも適切なるものと思はるゝ一事あり、即はち社會は一個人々の集合したるものなれば、此の社會全躰を改進せしむるには、亦一個人々を改進せしむるの方法を大用すべしと云へるヿ是れ也。此理は進歩したる社會學者、政事學者、進化論者、教育家等の均しく同意する所ろにして、吾人も亦た夙に確信し服膺し實行する所ろの意見なりとす。故に此意見を以て今の社會を改良するの最良方法果して何如なるかを推窮すべし。

先づ子供を教ゆるを見よ、時に之を叱るヿも善し、又た無理に教ゆるヿも善し、然れども常に叱るヿと無理に教ゆるヿとを以て其平常の教育方法とせば、決して之を善良なる大人に發達せしむるヿ能ざるべし。凡そ叱ると云ふヿは惡しき芽の伸んとするを摘み切るが如し、惡しき芽を摘み切るヿ亦た植木を養ふの一手段なりと云へども、此は即はち其變にして常にあらず、實に止を得ざるの時に至りて初めて行ふの事とす、左れば其常に於ては日に温ため、水を灑ぎ、肥料を與へ、自由に愉快に之を生長せしむべきが如く、子供を養ふにも、或は之を賞め、或は之を勵まし、或は之を樂しましめ、彼をして知らず識らず自ら進みて發達せしむるヿを心掛けざる可らず、之を最良の教育法と爲す也。又無理に教ゆると云ふヿは、口を開かせて食物を壓し入るゝに似たり、人の病みて自由ならぬヿ

き又は常ならず情剛くして致し方なき時は、或は偶ま此の如き壓制手段を用ゆると亦之なきにあらねど、此れ亦變にして決して常にあらず、其常の法方は彼の食慾の欲する時に食はしむべし、其の食慾の欲せざるときは身躰の亦た要せざる時なれば、此時に於て無理に之を壓入るゝは異日不消化の病を起すの元因たるべし、此如く學問を敎ゆるにも決して之を無理に爲す可らず、子供の甚はだ嫌ふときは彼が腦髓の未だ之に適せざるとき也、如此き時に於ては先づ尤も平易愉快なる事を學ばしめ、其の好むに隨つて漸次に學科を高くし、常に彼をして樂しんで學問せしむるを至善の敎育法とは爲す也。ペスタロッチ、スペンサー、皆な如此く言へり、吾人も亦た此敎育法の尤も適正に、尤も有効なるとを信ずるもの也。小供に適する所ろの敎育法旣に如此し、壯年に適する所ろの敎育法も亦た此理に同じ、然らば彼等人々が集合したる此の社會全躰を敎育するの法方に至つても亦均しく如此くならざる可らず、社會には一百余歳の老人もあり、力山を拔くの豪傑もあり、神天に達するの聖人もありと云へども、之を概括して社會を總觀すれば、社會は極めて幼稚なるもの也。特に我日本國の如きは文明未だ行渡らずして其全躰の發達は更に幼稚の幼稚なるもの也、故に日本の現社會は未だ壯年にあらず、寧ろ少年なり、一層之を切言すれば尚ほ子供の時代にあるものと云ざる可らず、此の日本社會と云へる大なる子供を敎育するに當つて、常に之を叱ると、又無理に敎ゆるとを以て適當せる敎育法と爲すべき乎、吾人は實に信服すると能ざるもの也。玆に一惡事現出せりとせよ、宗敎家は非常の勇氣を以て之を叱り懲すべし、又一惡風の除れざるものありとせよ、矯風家は非尋常の熱心を以て之を矯正せんとすべし、此等の矯正改除甚はだ効あり、必らずや其惡事惡風は頓に消滅すべしと云へども、若し常に如此き手段のみを以て社會を改良せんとせば、社會は此等の人を忌み嫌ひ何如にともして之を遠ざけんとすべし、其遠ざけらるゝ尚ほ可なりと云へども之が爲に尚ほ早く行ひ得べかりし改良法容易に行はれずして社會の不善は特に長く存在するともあらん、之れ彼等宗敎家矯風家に取て最上の不幸にあらずや。左れば彼等は社會の惡を叱るともすべし、又無理に敎ゆるともすべしと云へども、常に如此き手段をのみ以て社會を改良せんとを思ふ可らず、此等は其變格也、其常手段としては、之を喜ばせ、之を樂しませ、之を安んぜしむるの上に於て、不知不識間無爲にして化

せしむるの方法を取らざる可からず、之を社會教育法の最良なるものとなす也。

此故に子供のヲモチヤを奪ひ取りて常に叱り付け、又は子供の遊びを禁制して之を沈坐默立せしむるとの良教育にあらざる如く、社會通俗の樂しみとする所ろを撤去し、日々夜々之を教戒し之に説法するが如きは亦た社會教育の良法に非ず。人は心に於ては天使たり、肉に於ては動物たり、良心に於ては聖人たり、情慾に於ては野蠻人たり、事業に於ては大人たり、遊戯に於ては小兒たるものなれば、何如なる人物と云へども相應の戯遊する所ろ、安樂する所ろなかる可らず、況んや渾然全く一の大小兒たる今の日本現社會の如きものを教育せんとするに於ては、決して之がヲモチヤを奪ふ可らず、又之が遊びを禁ず可らず、但だ其ヲモチヤにして惡しき品ならば之を善きものに代ゆべし、其遊びにして危うき事あらば之に淸よき事を教ゆべし、則はち少さか其事物の躰を改たむるとを爲すべしと云へども其の事物を全く取り去る可らず。故に演劇の如く今の社會の尤も好む所ろのものは、若し之に不善なる所ろあらば則はち之を改良すべし、すべて演劇に遊ぶ可らずと云ふが如きは、多數の社會人を改進せしむる適當なる教育方法に非ざるなり。

女教育者ハンナモア俳優大家ゲーリック夫婦と友とし善し、ゲーリック死せし後ち飜然大悟して曰く、演劇は是れ人をして徒らに悲泣喜笑せしむ、即はち人の情を無實事の境に弄ぶもの也、道徳脩身の上に於て害あると少なからずと。世界婦人禁酒會々頭ウイラード女史、其著書中に謝して曰く、我家の家風嚴肅にして幼より小説を讀ましめられず、嘗て天路歴程一冊を讀めるの外か未だ一卷の稗史を見ずと。吾人亦た品行の淸絶なる如此ならんとを禱る、若し率直に吾人をして言わしめば、吾人は實に彼の淸教徒の氣風を慕ふもの也、人世万事元と悠々、此身長短山丘に歸すべし、而して天高く任重し、何の餘裕ありてか遊樂談笑せん、亦た深く彼の俗骨に到るの俗子を厭ふ、此曹一揖すれば已に人を涴す、吾人固より好みて之に近くに非ざる也、然れども彼の基督の何如に寂凄なりしかを見よ、而して其の何如に盜賊淫婦俗物惡人の間だに沒入せしかを見よ、苟くも世人を愛するものは先づ世界に墮落せざる可らず、幽山寒鴉を友として獨り暗寺に禪居するは眞正の社會改良者に非ざるべし、故に自から小説を讀まざるは可也、一家演劇を見ざるは可也、此以外更に高尚純

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

潔ある樂しみを得て靜安する甚はだ可也、然れども其の自ら在るが如く直ちに全社會をして在らしめんとするは甚はだ不可也、孔子の德實に敬愛すべし、然れども孔子の行狀を以て直ちに万人に要むべきにあらず、况んや之を小供に要求するに於てをや、「先づ乳を飲ますべし、次に肉を食はすべし」、其人を漸導緩化し、遂に孔子たらしめ、基督たらしめんとするは即はち眞正矯風家の任也。

レビット夫人切に吾人に語りて曰く、矯風を以て任とするものは屢ば冷酷に失し易し、君願くは過熱し誤つて之に失する勿れと、其の日本を去りて印度に在るや、恰かも女學雜誌發行停止の事あり、夫人亦遙かに書を寄せて曰く、君願くは冷酷に失する勿れと、嗚呼一婦人にして一主義を絶叫し、單身滿天下に遊說したるは開闢以來實にレビット夫人を以て最始となす、其勇氣凛々たる、其熱心の焰々たる、亦た推知すべし、而して其の心術の優溫として余裕あると如此し、吾人屢ば之を思ふて自から偏僻の去りがたきを歎ずるや久し。

此に於てか再たび問ふ、演劇は見物すべきものあるや否やと。吾人は其の尤も高尙にして殆んど淸教徒に類せんとするの人に向つては固より之を見物するの要あるまじと答ふべし、然れども又其類の人にして敢て万人に向ひ一樣に見物す可らずと言ふと莫らんを希望すべし、故に滔々たる社會全躰に向つては必らずしも之を見物する勿れと云はず、即はち其見物す可らざるものたるを答ふるとなし。此に至つて吾人は彼の尤も嚴格ある宗教家に友たると共に、亦た尤も通俗せる諸君に對して其友たるとを得べし。

此故に演劇の改良を要むるや亦甚はだ熱心あり、希はくは吾人が層一層に、上一上に、いよ〳〵之を改良し、其改良と共に見物人の眼識を高め、彼等をして樂しましむると共に淸く樂しましめ、其淸く樂しむと共に自づから淸くならしめ、以て矯風改惡の事業を不知不識の間に行はんと欲す。左れば歌舞伎座は能く吾人が今の時世に對して理想したる程に改良したる乎、否や、若し夫丈に改良したりとせば、吾人は謹しみて之を祝すべし、若し夫丈に及ばざりしとせば、吾人は熱心に第二の改良を仰望すべし。故に演劇、及び演劇改良と云へるは、吾人が決して輕々しく看過せざるの問題にして、吾黨諸君の亦た決して雲烟眼を過ぐる如くに冷視せざるの問題なるべし。

(一)。九つを三つに分けるさ名山の一つ。
(二)。生み親のない娘は誰です。

論説

○歐米文明世界に於ける一家の狀態を論ず

小林愛軒

歐米諸國は文化の淵藪なり工藝發達の天地なり然れども文化の淵藪果して幸福なる乎工藝進歩の天地果して樂園なる乎鋭敏なる眼光を以て些細に其陰裏の顯象を觀察せば歎驚すべきもの恐懼すべきもの蓋し少きに非ざる可し殊に一家(familie)の狀態の如きに至つては實に默々に附す可からざる者を如何せん。

抑々男女兩性の一家と密接の關係を有するは固より論を待たず且つ國民の禍福及び國家の榮枯は一家の禍福榮枯より來るは亦た爭ふ可からざるの事實あり今や歐米諸國の狀況は果して一家の結合を維持し男女間の秩序を保つや否や是今日の一大問題なりと信ず去れば予は今左に卑見を述べて世の憂國の紳士及び多情の貴孃に向つて其判定を乞はんとす。

吾人若し活眼を開きて社會今日の關係を洞觀し殊に大都の地及び工藝事業の中心に向つて視點を注ぎなば直に恐懼驚嘆すべき一家蹂躙の畵圖を見るなる可し而して此一家蹂躙なるものは實に貧富懸隔の大進歩より起因するものにして一方に於ては富裕奢侈の增加之が原因となり又他方に於ては彼の驚く可き貧人の增加之が原因を爲すあり此の如く財產の增殖及び之と相伴ひ來る所の奢侈の增加するに從ひ一家に關する男女共同の憂慮義務等は殆んど一掃し去らんとするが如し今や富裕なる人資本家の狀を察するに其貨物の整理より製作塲の指揮に至るまで盡く之を各專門家に委任し最早精神上の勞動と身躰上の勞動とを問はず自ら勞動して收利を謀るとなく假令之ありとするも獨り此等委任の人に向つて僅に一定の監督を爲すに過ぎず然れども是未十分生產勞動の最小點(Minimum der productiver thaetigneit)に達したるものに非らず今日尙此の點に向つて進行しつゝあるなり而して富人は今日已に其の婦人に向つて最早生產の補助者たるとを求むるを要せず又一家の消費の點に於ても亦た已に婦人の整理を要せざるが如く彼の米國の如く好んで其生活を「ホテル」に送らざるの地に在りては他に家政を司るの女ありて家婦の守護者と爲れり工藝事業の未だ今日の如く進步せざる以前に當りては商工富豪の家に在りて婦人の位地は甚だ多くの業務を有し且つ甚だ必用ある位地なりしあり當時其家には多くの仲間及び弟子ありしを以て富の增殖するに從ひ婦人の業務も益々增加せり若し其の家に二十人の仲間弟子ありて食卓に附き又二十人の奴婢

ありて之が爲めに麵麭を切り洗濯を爲し臥床の用意等を爲さゝる可らずとせバ婦人の業務ハ決して僅少に非ざるなり然れども製工事業の爲に全く他の顯象を呈出し從來の仲間弟子ハ去りて製工勞動者出で來り多くの製工場は無數の勞動者に業を與へたり勞動者の此く無數なるが爲に遂に主人の家に在りて其親族の周旋配慮を受くるは到底能ハざるに至り如何なる婦人と雖ども最早勞動者輩の言語動作を覺知するは勿論只其顏を認知するも尙ほ其力の及ばざるとなれり是に於て家婦(Hausfrau)の必用減して貴女(Dame)ある者起り只だ僅み蹈舞遊宴交際場裡に其徒然の苦を免るゝとなれり。

然し是啻に婦人をして閑暇の身と爲らしめたるのみにして決して一家に於て最も必用なる兒子養育の共同義務を消滅せしめたるものに非らず然れども乳母あり守子あり幼稚園あり養育院あり金錢を拂つて其子の養育を放任するの風日に益々進步し兒子養育の全く父母の手を去る亦た遠きに非ざるべし佛蘭西にては少くとも富豪の女子は其幼時を庵寺の中に消すると云ふ又富豪日常の生活の狀を見るに夫婦相離れて其居所を別にし婦ハ最早夫の家業に加入するハ固より之に向つて少しも其意思を向けず且つ夫は夫の知己あり婦ハ婦の朋友あり各其交際場を異よし其行く所の會社協會皆異にして一年の間共同市同府にあると尙ほ實に稀少なり此の如くんば安ぞ一家及ひ一家團欒の十分なる意味を共間に解するを得んや。

而して貧困の進步より來る一家の破壞に至つて尙之より驚くべきものあり即ち製工事業益々進んで手工手藝の業益々退去せられ隨て又漸く中等社會の地位を破壞せんとせり家內の製工業は日々に其跡を蟄して今日にては紡績の業と雖も殆ど機械力の爲に一家の外に製工場裡に逼迫せられんとす故に家內に於る婦人の業ハ之が爲に一變動を來し却て家外に於て其勢を擅にせり此く工藝の術愈々進み機械の力益々盛大と爲り遂に勞動者をして一家の生活を爲と能はざらしめたり工藝業の廣大なる中心には勞動者ハ一家相離隔して各寄寓に其生活を爲し又或る多くの地方に於ては尙一層憂ふべきものあり即ち多數の勞動者は其家族と共に盡く一舍內み混住し其食を共にし加之其眠室を共にせり是を以て獨り其居住の困難なるのみならず彼等の間には總の善良なる感情も總の廉耻心も又總の榮譽心も悉く其嫩芽の發生を害せられ一言以て之を盲へバ風俗頹廢見るに忍ざるものあり假令或ハ一家各固有の家屋を有するとあるも夫婦の成立及び一家固有の性質に至つては亦た

等しく之を維持するを得ず何となれバ彼等ハ實に一家團欒の生活を爲すに足るの時を有せず又金錢を有せざれバなり彼等ハ獨り生活を扶持せんが爲に夫婦及び壯年の子ハ皆製工場裡に在て夙夜其勞を執り一家庖厨の事より小兒の養育に至るまで家内一般の事ハ悉く老人或ハ幼兒の手に放任せられ父母夫婦兄弟姉妹共に一家の中に集合するハ徒に寢食の二時に過ぎず事情此の如くして一家談笑和樂して所謂一家固有の性質を養成せんとするハ是豈木に縁りて魚を求むるに異ならんや此の如き家にして英人の所謂「ホーム」と稱するを得べき乎幸に上帝ハ彼等の安息日として一週中に日曜の一日を與へたれども此一日の安息日に於ても或ハ一家の事務あり或ハ政治の會合あり其の諸種の會合は日々其數を增し遂に勞動者燕安の時を奪ふに至れり是れを以て一家の感情ハ盡く窒息して之に反して階級心(Klasseugeist)の發動ハ益々甚しく階級心ハ愈々進んで他階怨惡の熱情に變じ其身の運命が一家の盛衰に大關係なるを知らず其身ハ一家の一部なることを忘れ却りて其身を以て同階級…勞動社會の一人なりと思ひ徒に他階を破壞せんとせり而して其實勞動社會の利害ハ多くハ貿易上職業上時々の關係より起り又一にハ其社會の組織に關するものなり然れども彼等の思慮此に至らざるも亦た已むを得ざるの勢なり。

以上述ぶる所ハ少くも製工場を有し或ハ固有の資本家を有する勞動者の狀況なり然れども彼雨降れバ輒ち業を休み隨て亦た一の收益なき日雇人に至りてハ其慘狀一層甚しく彼等ハ夢にだも一家團欒の快樂を見ること能ハざる可し。

此く慘酷なる一家の破壞ハ遂に夫婦結合の破壞を來すものにして先づ第一に婦人の地位を危ふするの根源たるや疑を容れず而して此の如き危險に向つて之を恐れ其目を閉ぢ其耳を掩ふも將た何の益する所あらん徒に其危害を待つのみなり是を以て有爲の士ハ夙に目を茲に注ぎ非常なる熱情を以て非常なる犧牲を以て之を防がんことを謀れども其良策なきを如何せん其他婦人に在ても一家の中に於てのみならず亦た勞動者に對して實に屢々大業を企てたり然れども惜むらくハ其善意より出たる企業も一家の分裂を防ぐの道に遠く却つて一家の分裂解散を進むる一種の救助策に過ぎず彼の育兒院幼稚園日曜學校勞動者讀書會及び「ホテル」倶樂部協會其他諸種の教會等ハ則ち予の所謂一種の救助策なり固より予ハ此等の企業ハ皆貴女輩の慈善心より出たるものなることを知るなり否予ハ他に最良の策を見出さゞるの間ハ今日の困難に向つて貴女輩が犧牲

を分擔して務めて此の如き企業を爲さんとを望むなり然れども已に述ぶる如く是未だ眞正なる最良救助策なりと信ずるを得ず何となれば此策たるや一家の結合を救ひ隨て之と共に各箇人の自由を進むるよりは寧ろ之を危ふするの傾向あるを以てなり然るに若し婦女にして十分政治上の運動に加入せんとする如きあらず將に何の處に向つて此の緊要なる一家の大問題を解くべきの時及び地を求めんとする乎盍し亦た歎ずべきものなり。

是實に文化の淵叢、工藝發達の天地に見る所の現象なり而して予れ之を見て一たびは驚嘆し一たびは恐懼す幸にして我邦に於ては貧富の懸隔歐米の如く大ならず隨て一家蹂躪の慘狀なきは予が諸君と共に喜び且つ祝せんとする所なり然れども我邦果して他日此慘狀を惹起すの傾向なきや否や予の不明なる眼光は未だ之を觀通する能はず若し不幸にして万一幾何にても其傾向ありとせば憂國の紳士多情の貴孃輩は宜しく之を防ぐの最良策を講究せざる可からず。」

女學子附言、此論に於て慨歎する所ろは、現今の米國に於て特に尤も議論ある所なり、此弊の如く漸く增し家族團欒の幸福の次第に減ぜんとするとに付ては、社會學者深く之を憂ふ。我國の如き、未だ此憂を要するに至らざるは、一は喜こぶべく一は悲むべし。

批評

○紅葉山人の「戀山賊」　不知庵主人

女學雜誌百八十五號二百八十六頁に「戀山賊」の略評あり。女學記者に向ひ、是を賞贊し近日出色の立案にて若し罵らんには共に文學を語るべからずと云ひし社友とは誰あらふ、かく申す拙者なり、紅葉山人は余が最も深き友なれど何をか阿諛してかく云ひしにあらで、まこと其着眼の高きに服して女學記者に語りしなり、嘘にはあらず、今の文界に珍らしき着眼のすぐれたるは誰か異論を容るべき——もし小說の極粹を悟りし者たらば。

今の世の中に大したものが出來る筈なしとは、そも現世を疎んじて未來の完美を望むもの丶言か、はた往昔を戀ふて何事も及ばずとあきらめしもの丶言か。言ふ迄もなくミルトンやウオルヅウオルスは大なる文學者に相違なけれど是等千歳一人とも云ふべきを唯一のものと尊奉して他は雕蟲の末技と竊かに退くる如きは狹隘なる說といふべし。大砲の音大に轟ろき渡ればとて是が唯一の大なるものにもあるまじ、細流の石に珠を散らすも一種の美あり、彼と是とは形を異にすれば全一に議すべからず。天地の大元より余の喜ぶ處あり、自然の

美元より余の愛する處なり。さりとて天地の大と自然の美に眩まされて人情の微を穿ちしをもて是より低き着眼となすは豈余の能ふ處ならんや。

余は常に疑ふ、世間の人唯形の大なるに驚きて更に質の精なるに留心せざる事を。かの失樂園の詩の如く結構の大なる殆んど凡常の想像を超へたるは格別なから、是に倣ふて徒らに奇巧を弄したるものをも外形に眩惑せられて只管賛賞し、苟くも事小なれば縦令極粹に徹するも退けて第二位となすはそも何故ぞ。スコットは歴史的小説に於ては空前絶後の大家なれども世態人情の極微を寫し巧みに無數のキヤラクターを點出せし妙に到つては遙かにヂッケンスの後に瞠若す。さすれば其長を執て相比するに共に第一流の文學者たらんか。我が馬琴の如きも百餘巻の八犬傳を著はせし大手筆なれど、さはとて是ばかりをもて第一流となすを得ざるなり。

今世界の大小説家と云ふべきは露のトルストイと佛のゾーラなるが、反敵最も多くして天下宗教家に蛇蝎の如く惡まるゝはゾーラなり。彼れ好んで下賤なる情慾の微を寫し人間心裏の醜惡を暴露す、故に感情に動かされ易き論者は一讀――直ろ一見して是を唾棄し不道徳不純潔と罵詈す。まことゾーラの作中最も不純潔と評判ある「ナヽ」は中々に劣情中の劣情を寫したれば或は一方より猥褻と罵らるゝも無理ならぬ事ながら、ゾーラは天下に毒を流すものと云ふを得んや。

人間は皮一枚、若し皮破るれば汚穢なる臟腑溢出し風雨にさらされ陽日に燒かれ、終には白骨となり土灰となる。一枚の皮如何に美はしとも其胸腹を解剖すれば千年の戀も覺めるがならひ。よしや表面は實義正直に見へても心に惡魔の存せぬ事やある、ソクラテスが我れ醜惡の念を抱くが故に醜惡の相ありと曰ひしは絶世の卓言にて賢哲其人の如くにしてなほ醜惡の心あるに、凡人誰か迷はざる者はあらん。さすれば人情の微を寫さんにいかでか醜惡を除き去るを得べき。若し今の世が樂園たらば億萬の人悉く清淨無垢にして是を寫す小説も清淨無垢たるべきが、如何にせん世は總て不純潔に流れたれば何とて樂園の小説を望むべき。

「戀山賤」は實にゾーラの「アベ、ムール」に胚胎せり。若し日本にゾーラの敵ありとせば是こそ不道徳の甚だしきものと罵詈せらるべきに、平生ゾーラを天下の惡魔と罵りし女學記者がまづ「山賤がフト煩惱心を起し乍ち又後悔して身の毛よだち目をねぶり唱名中すところ中々の筆なり」と賛められしこ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

そ不思議なれ……是ぞ余の大に喜ぶ處なり。西鶴の文はねぢりたる白銀の如かひねりたる厄神の如きか、余は更に曰はず。何となれば「戀山賤」の妙は文章にあらず着眼にあればなり。もし文章をもて云へば「戀山賤」は「色懺悔」「京人形」に續ぐの拙悪文字なればなり。唯其重んずべき所以は實に着眼最も高くして人間の胸奥に善悪共に存するを觀破せしにあり。春の屋主人の「書生氣質」以來群小説家も出でたり群小説も出でたり。世態の微を穿ちしもの少なきにあらねどよく人間醜悪の隠るゝを寫せしもの幾類かある。○「戀山賤」は獨り紅葉作中の第一のみか、明治文界――恐らく文化文政の盛時にも求むべからざる立案なり。文章は稱賛するに足らねど着眼の高きは敬服すべし。

然るに、思ひきや二百餘年前の昔に井原西鶴は是と全様なる立案を仕組みたり。○「義理物語巻六」「表向は夫婦の中垣」とある中に、

「（上略）諸人の執心うたてく戀をやめさせんがためにかく夫婦とは申しならはせける、實は女房どもと云へば息女めかしこくて旦那〳〵と云ひなし給へり。此心やすきより媚いつとなくまことの妻の如く思なしてうちとけさせ給ふも、此の男身をかため武士の心底をたてゆめ〳〵それに氣をうつさず、さりとはむつましぎわひ住の年をふりぬ。折ふし夏の雨しきりに宵より鳴神ひらき渡りて、つねさへ荒屋殊更にこぼれて軒の雫もいたくふり込み、南風はげしく板戸もかけがねはづれて外の光のおそろしく内のともしび影きへて女心にはひとしほ物かなしく賴む人とて親仁なれば、ゆたかにふしたる懐にかけ入らせ給ひ、こわやとしがみつかせ給ひ、やごとなき御肌の身にさはれば、觀音經を讀誦して隨分心を移さゝりしが。神鳴も落かたしれずおさまり、雨も止みて權下地のしのべ竹に白玉の取添ふも物あはれにやさしく見へて。昔男の女をだまし鬼一口にかみ殺されたりと思ひ入たる、闇の夜も正しくこんな面影ならめと、親仁者をおこして人のしる事にはあらず、律義も物によれと左の足をうちもたせけるが、弓矢八幡誤つたり、いかにして道をそむけり、扨も淺ましき心底かなと、我と悪心飜がへして、それよりむく起にして立さり、觀念のあかり窓のもとふして其夜をすごし（下略）

とあり。是こそ不思議にも今の「戀山賤」と全立案あり。紅葉山人ゾーラに感服して是を作るは未だ充分ある諸辭を呈する

に足らねど、二百餘年前の西鶴が着眼かくまでに高かりしは……そも文學の一大不思議か。是ればかりか此二者を比較すれば、如何に紅葉山人は西洋の新空氣を吸はれしとて猶ほ西鶴の愈々高きに及ばざる點あり。「戀山賤」には、「（上略）もしや我せしいたづらを知りて告口されたらば卯平爺の手前……それよりは第一に濟まぬは旦那様（下略）」とあり。是を明ら様に云へば、我心に耻ちる事よりは旦那の機嫌を損じて村を追出されるを恐ろしく思ひしなれば、もし女が戸長様のお客ならずして仕事のわかる愛なくばまだ煩惱心も去らぬなるべし。さあらば心の悪魔はなほ立去らで罪の消へしとは云ひがたし。仝じ様なれど西鶴は「いかにしても道をそむけり扨も淺ましき心底かなと我と悪心翻がへして」と書きし。一は山賤一は武士と多少の相違はあるべけれど人間の真心にはいづれ變化あるべき。紅葉山人の立案はゾーラに出でゝ不思議に西鶴と暗合せしなるが、未だ西鶴の着眼更に高かりしに及ばず。立案は紅葉作中の第一なれど文章は更に妙なし。小説は文章をもて第一の目的となすものならざれば文章に妙なきも咎むるに足らず。上の卷の末段「猫ぢやらしの帶の結目に蝶が狂ふも」の句は絶唱、其次に「聞せがましく枕元の木末に囀の前渡りも」と對せられしは名案なれど大に句を弱めるの嫌ありと幸田露伴氏曰はれしが道理ある言。兎もあれ此二句の外は眼に止りしものなし、是とて小瑕瑾なれば云ふべきほどの事にあらず。

○平民政治　民友社發兌

米洲合衆國に付き、平民政治に付き、地方分權主義に付き、最新最廣の觀察を遂げたるものはブライス氏にして、其著書を亞米利加共和國と云ふ、民友社の人見一太郎君之を改めて平民政治と題し、二年間時々に出版して此大書籍を釋成せられんとす、元書に關はりてはハリソン、スミスの二氏及び、タイムス、子ーションの二新聞にて十分に批評したり、蓋しトクヴヰルに續きて劣らざるの秀著述なり、譯文は流暢快活にして甚はだ分り易し、高橋五郎君の校閲もありと引すれど譯者が能文と勉強とあらねば爭に如此きは得じ、緒言に云く今日政治世界の實情余をして自から不肖を忘れ此の大業を任ぜしむるに於て已む可からざるものありと、君が之を譯し民友社が之を出版する實に平民的運動の爲に尤も適當したるもの也、吾人之を祝す。

○精神啓微　島村利助發兌

醫科大學生吳秀三氏の著わす所ろにして、精神を物質的より論啓したるもの也、此題する文に曰く、嘗てヘッケルの創世史を讀み万有の理は一派學の手に委す可らざるを覺り、ビユヒチルの勢力物質論を閱し心理の學は生理學と相ひ千里なる可らざるを知り從以て勉むる所あらんとせりと、然らば君はヘッケルの如くビユヒチルの如く只だ唯物的にのみ精神を解し去るの不十分なるを悟る也。而して末段に云く、此書唯物論中万有學者の信奉する所のものは取て鋪張説をなせしに他ならず我學は歸納を主とし實踐經驗により推究して他に及ぼすもの也と、然らば君は今ま只だ物質的の中面より先づ之を論じたる也、異日更に勢力的より論述して初めて其の蘊胸を盡すものと云ふべし。君曰く歸納は初也演繹は后也と、君今ま歸納法より立論せり願くは后日亦た演繹法より立論したるものを公けにせんことを、而して初めて其完きを得べし若し夫れ本書のみを以て完しと云はば吾人大に異論なき能わはず、蓋し人はたゞ理化生理學のみの研究物に非ざる也。文章雄健、筆頭張ば花を散ず、文學上無味の理論之が爲に大有味となれり。

雜録

○眞の伉儷

茅の屋主人

弱きを棄て、愚かなるを卑しむと云ふは、人情に免れぬ所ろですが、左りとて誰しも美しひととは思ひません、弱ければ助けたい、愚かなれば敎へたいと云ふが人の人たる所ろで、若し深く良心に顧みれば孰れにも此の念ひはあります、其處で前の卑しき情を我儘に行ふときは人物がます／＼卑しくなり、次の立派なる心掛を爲るやうにすれば人物も自から上て來ます、人は僅かの覺悟次第で聖人にも、俗人にも成ます。

ベーコンと云ふ人の語ばに朋友の無いものは神か獸物だと申しましたが、凡そ人間は誰も朋友を求めるもので、總じて世の關係より來る不平等は幾らあるにせよ、此等の不平等を悉とく忘れて、眞とに同等の心持になり、喜びを分ちて一層に喜こび、悲しみを分ちて歎きを減ずると云ふは、何人も望む所ろです、然るに此朋友の得られぬのは、人々が私慾の念の多ひからなので、即はち眞の朋友の得られぬ人はドコカに冷たいすごい我儘な氣質があるのです。

夫婦は一生の朋友で、世の中に此ほど親しい朋友はありますまい、朋友中の朋友と申しても宜ひでせう。夫の氣の附かぬ所ろもあれば、妻が及ばぬ所ろもありませうものを、其等の優劣不平等を悉とく忘れ、全く同等平等の心掛になつてお互ひに友達の樣に思ふと云ふのは、之が既に人の美しひ性質をば現わしたものです。其上へ、病氣と云へば看病し、悲しむと云へば慰さめ、殆んど何の報ひも何の功名も忘れて、只だ一方の爲に盡したいと云ふ心掛で、夫婦互ひに相愛護すると云ふのは、何如に美しひとでせうか、人間の最も良き性質は玆に十分に現はれて居ます。

夫故、同等同愛の夫婦は、其心掛がすでに最良の道に適ふ上に、眞の朋友として相いつくしむ點から、いよ／＼慈悲深き氣質を伸して來まして、あの思ひ遣りとか、他人の爲めに一身を獻げるとか云ふやうな高尙な義心も、全く之から出て參ります。左れば夫婦と云ふものは、只愛するものが一所になつて樂しむと云ふ丈けの道ではありません、其愛によりて互ひに保護し、双方の美質をいよ／＼發達して、ます／＼立派な人間となる爲めの大切なる方法であります。

夫に夫婦となつてからも、妻は夫に畏れ服し、夫は妻を輕んじ使ふと云ふやうでは、第一眞の同等平等と云ふものが無く、隨つて本當の朋友とはなれませぬから、前に言ふやうな幸わ

ひな心掛も決して出て參りません。夫婦は同等にしてこそ、初めて眞の愛も出ます、愛に恐れなしと云ひて恐れると云ふ念がある中はまだ十分の愛は無いのです、十分の愛の無い夫婦は主從のやうなもので、朋友ではありません、人の美しひ德を伸ばさすことが出來ません。

○近躰文章　城山山樵

方今の文學社會は、恰かも戰國亂離の時の如し、六雄八將十方に割據し、各自發明の筆法によりて自由氣儘に文を操ぞるに似たり、中原の鹿果して誰が手に落つべきか、我も知らず人も知らず當の大將すら之を覺束なく思はるゝなるべし、我は山中の樵夫にして、世間の活勢に暗し、固より何れの御方が優り玉ふや劣り玉ふやを辨知しがたけれど、此頃思ふ節々偶と書き捨てたるを、讀者の一笑に供せよと迫る人あり、兎角言はんとする間に既に奪ひ去られたり。

細眼を出來る丈けに見張り、心を靜めてつら〱文海の動搖を聽くに、漢文章大家名家の御事は暫らく言はず、眞假混合の近文躰にして多少世人の注目を引き、其心を動かすの稍や多きを以て名あるもの既に二十人程あり、われ左に其名を列擧し、少さか畧評を附すべし。

一　福澤諭吉君　笑ふが如く、罵るか如く、慷慨するが如く、泣言いふが如く、時には大政事家の如く、時には素町人の如く、時には婦人の如く、時には子供の如く、變通自在にして其時々に文章の自由圓滑に變通すること、巧妙奥玄既に非凡の資あり、其文辭は俗語にして文躰一も整ふことなし、然るに婦人女子より大哲學者に至る迄で、一讀して思はず首肯せしむるの妙に至ては、若年者の遠く及び難き所ろ也、蓋し君は文學上の文學者に非ずして、人情界の文學者なり、其文章は文辭文躰の外に一種の麗文を現ずるものか、之れを至文と云ふべし。

二　矢野文雄君　福澤君の神髓を受て一變硬固したるものを矢野文雄君とす、字穩當、躰整々として、激語慨何なきに氣力千斤の重あり、喩へば天馬廣原を歩み、蹄音肅々として塵を上げざるの心地す。

三　福地源一郎君　久しく君の政治論を見ず、然れども遠からず其台帳を得んとす、思ふに方今の文壇何ほ君を失ふことあるまじ、其文艶麗璀燦、才氣放逸して滿面に漲ぎる、美少年優然馬に跨がり、手綱を壓へ、鞭を休め、惡氣なくすまして、戛々行かしむるに似たり。

三　依田百川君　漢骨和裝、優然凜然たり、其能く和文の美粹を得て、漢文の氣骨を加ふる所ろ、白石の妙所を嗣げり、之を文章として、此如く熟し、如此く香氣あるもの方今極めて少なし。

四　饗庭與三郎君　渾和圓滿すでに一家を爲さんとす、依田君は武士の如く、饗庭君は戯作者の如し、輕重の差もとより同じからねど共に文壇の先生なり、戯れて亂れず、笑つて遊ばず、悠々太平樂を歌つて其氣の固く存するもの蓋し君の文のみ、世人多く君の滑稽を認たむ、余は獨り其の眞面目の確かなるに服する也。

五　森田文藏君　漢洋和雜然として混じ其跡の歴々として見るべきは德富君の文なり、其熟和渾成して殆んど微瑕をも存せざるは森田君の文なり、漢學者をして后生可畏と言はしむるは恐らく此人なるべし、氣焔活火なきは惜しむべしと云へども、後日大家たらんものゝ一人は必らず君なるべし、余は其の堂々滿引の姿あるに服す、蓋し矢野君に類して更に勉めたるもの歟。

六　德富猪一郎君　世人が之を歎賞するは其の文の形にあるが如し、然れども余は其文の精神を愛するもの也、揚發する所ろ一種の長詩となる、吟誦して轉たゝ口頭に春風を生ずるを覺ゆ、之れ快ならざるに非ずと云へども、其文精の雄厚博大にして深く人情大道より發し來るの所ろ更らに愛讀すべきもの也、但だ斧鑿の痕迹往々にして見はる、其の斬新快鮮なると共に一長一短を爲す。

七　志賀重昂君　欝勃慷慨にして重厚濃々たる他に此如きはあらず、作語大抵詩情より來る、多く生硬のものあれども亦た甚はだ珍らし。

八　植村正久君　文辭句節、淸麗純潔にして金の如きは君が特得の長所なり、德富志賀兩君の文は形に於て詩に近し、植村君の文は音に於て詩調あり、前后照應なく、起結亂雜すと云へども、一々眞情に發して讀者を淸高ならしむ、近文中の尤も聖なるものか、若し其類を求れば依田君に近し、共に武士の如く大丈夫の如く氣力精神至つて重し。

九　中江篤助君　沈痛沈鬱にして熱火の地盤冷水を噴出し來る、文章一々罵倒的なり、漢籍の學力十分に備はつて佛國過激文學の情を加味す、文字穿鑿適切にして間ま俗語を混ず、一見すれば三々五々亂舞するを覺ゆ、而して之を一讀すれば洪滔たる激流の地下に奔躍横逸するを悟る。

十　田口卯吉君　平々凡々、何の優る所ろもなきが如くして而して大に優るものは君が文なり、其の飄忽として輕々に來り輕々に去る所ろ絶えて苦心の痕を見ず、而して鏤心刻骨の所ろ亦た此の痕なき所ろに在り、流麗老圓、君が文いよ〳〵熟するもの丶如し、

以上十家各優劣長短あり、名を列するに前后あるは只だ便に從ふのみ、敢て之を序するに非ず。

○雙子の原因　　十一寸月人

世間に間々雙子なるものあり其出づるや偶然にあらずして必らず原因あるは明白なる事實なれども未だ是れに恰當せる說明あるを聞かず或は全く是を父に歸し或は全く母に歸すれども兩つながら誤れるが如し蓋し一婦數夫に嫁したるに其產む所のもの悉とく雙子なるとあり又一男子數婦を娶りたるに其子悉とく雙子なるとあり故に雙子の原因は男女倶有する稟性にして之れを男親若くは女親のみに限るは說のあたれるものにあらざるべし。

一千七百五十五年一男子あり希世の子持なりとて俄國女皇の玉座近く徵されたり此もの二人の妻を娶りしが始めの妻二十一回の分娩にて五十七人を產み後妻十三回にて三十三人を產めり而して尤も不思議なるは一回も單產なく必然一度に四人三人若くは雙子を產めりと。又一婦あり九人の兒を產みしが長子を除くの外皆男子にして又皆雙子なりと是等は復產の類繁なるものにして世上多く見ざるところなるが雙子一回なるは吾人の能く耳にする所深く怪むに足らざるなり。

今統計表より推論せる學說なりと云ふを聞くに復產の數は年に依つて異同あり是れ蓋し氣候冷熱乾濕の年々同じからざるの致すところか未だ悉とく知る能はざるなり然れども其與つて効力の著るしきものは母の年齡なるべし其十六七歲則ち分娩の尤初期より四十歲則はち尤晚分娩期に到るまで雙子懷胎の傾行次第に增長し二十歲より三十歲までの間に一回も雙子を產まざる如きは至つて稀なりと云ふ。又統計を概推すれば一年中分娩總數の五分の三は婦人三十歲以下のものより出で雙子總數の五分の三は三十歲以上の婦人より產ると云ふ是に因て見れば老婦就中老年に及んで始めて嫁したる婦人は復產に罹り易く十八九歲の若婦には其例殆んど無きが如し。其他人類種族の異なるに隨ひ復產の數に差あり譬如ば愛蘭人は英人より屢々復產すと然れども之を研究すると日尚ほ淺くして加ふるに學理的解明に不充分なるを以て未だ一概に信ずると

克はざるあり。

○元祿の三大家

ふ、ち、

天和貞享延寶元祿寶永頃の文學を總稱して元祿文學と云ひ、德川文學の最も耀々たりし時代なり。遠き昔の物語時代は貴族的文學にして是を弄びしものハ堂上公卿か貴嬪上﨟ならざるはなし、故に優柔に流れ浮華に陷りたり。是に反して元祿の文學は平民的に發達し一代の偉人と云はれたるは市人隱者僧侶庶士にありたれば不羈自在にして絕て局促の氣なし。是れ自然に馳せて些々たる句法に拘泥せざりし故あり。元祿の三大家を松尾芭蕉井原西鶴近松門左とす、共に空前絕後にして日本文學の極粹といふべし。而して此三大家の祖とも云ふべき一大家を西山宗因とす。宗因は大坂の人にして松意の聘に應じて江戶に來り、「されば爰に談林の木あり梅の花」の句を詠みて江戶談林の宗祖と仰がる、貞德の古俳諧は連歌の餘臭を帶びて俳諧の妙味さらになし。宗因此間に談林の一派を起し絕代の卓見をもて從來の無味を一變し天下をして靡然其下に依らしめしは、是も一世の豪傑なり。芭蕉は初め宗因を奉じたりしが談林の漸く虛飾に失し天下の文學亂るゝを見て蹶然として其弊を觀破し終に古池の句をもて蕉風の基礎を立つ。西鶴は宗因の門より出で一派の浮世草紙を創作し、門左は又西鶴の門に出でゝ淨瑠璃界に一生面を開きたり。いづれもよく先人の型を脫し各々其道の開祖と仰がる、二百餘年前の元祿はそもわがエリザベス時代か。

○フヰックスの逸事

輝雄

古往以來文學者政治家さし言へば其言行奇々怪々人の意想外に出づるもの多し磊落不羈は動もすれば輕忽放肆に陷り易く其の勇壯活潑は亂暴無法に傾き易し信さや逸才は狂顚亂心に近かしさ。フヰックスは英國ヂョルヂ第三世の朝に事へて有名なる政治家なるが少時の常行甚だ奇なるものあり。ローヂアー氏は言へり彼は非常なる扮粧者にして頭に小さき佛蘭西形の古風なる帽子を戴き赤き踵の沓を穿てり一見して其異風に驚くべし。

氏は性來賭博を娯み之れに耽るさきは時刻を忘れ夢中になるの惡癖あり一夕其友フイッツ、パトリックさ骨牌遊をなしたるが午后十時より始めて翌日午后六時に至り眼眸霞を張り精神昏冥し猶は息まず給仕人傍らに在つて其健康に害あるを知つて漸やく之れを止めたりさ斯在行跡にてありければ時さしては一夜の博奕に大敗を釀し負債山の如く悄然さして家に皈ろことあり友人是を視て鬱積愁苦遂に自殺せんことを恐れて竊かに追跡氏が家に到れば何んぞ料らん榻上に希臘語を勉强してあらんさは。又時さして大勝利を得ろことあり其一夜に八千ポンドを得しさき債主機を失せず氏の許に來り直ちに返金せんことを請ればフヰックスは先づ證書を歷見し余は金を返却すべし之に先つて今迄毀損したる吾名譽を恢復せざる可らすさ言つゝ寸々に證書を引裂き火に投じたり債主は之を視て大に怒り其無道を責ればフヰックスは徐かに衣囊より貨幣を出して余は是を以て吾名譽を買返したりさて證書面の金額を悉皆返却せりさ。フヰックスの惡習忌むべく改たむべきなり而て氏は能く之を改めたり吾人はクロムウエルの傳記を讀むも同奧味の惡癖あるを見る而て氏も亦之を改めたるが故に爾士政治界に雄飛して偉大なる形象を現出するとを得たるのみ豈貿中大覺悟なき庸夫の企圖する所ろならんやフヰックス未だ少年なりしさきルナルディなる者始めて輕氣球を作り日さして登

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

搦するとの街說專らなりければ府中の市民老幼男女を問はず聚り來るもの山の如く皆一處に蝟集して雜沓を極めしがフチツクスも兄と俱に此群集に打雜り翹足して之れを見物せり暫らくして時刻を見んとて不圖衣嚢に手を入れたるに不審なるかな餘人の手旣に其內に在つて物を探り居たれば直ちに緊と之を握り顧みて罵て曰く……汝攫徒汝は終に其身を亡ぼすの賤業を營めり……嗚呼フチツクス君願はくは余を赦して去らしめよ余は元來一芥だも他人の物を盜むの惡念なかりしが妻子飢渴に迫つて日夜に呼號し之れを救ふの術絕へて今何如ともすること能はず是を以て終に玆に到れるなり希くは赦し玉へと其狀眞情を露はし又た他意なく見へければフチツクスは憫惻の情に堪へず五圓金を出して去らしめたり暫らくして輕氣球飄搖として空中に揚れば雲霞の看者百雷の一時に墮るが如く歡聲天を震ひしが忽ち雲霄に穿入し去つて强力の肉眼にすら定かに見ること能はざれば人々諠譟風說區々にして四散せり。フチツクスも同じく歸らんとして心附き又衣嚢を探るに懷中時計を見ず愕いて之れを兄に問ふに兄の曰く余は先刻御身の傍らに立てる不識人御身の時計を持てるを見たれど旣に御身と何事か親しく談話せし居なれば怪みもせず又彼其處を立去る時も別段注意せざりしと之れを聞てフチツクスは始めて人情の酷薄冷淡せるを感じ浩歎又一長息せりと云ふ。

〇漫錄（まんろく）

叢菊野史　仁田桂二郎

〇易

易は頗る面白し八卦の變易は哲理を含み論理學の推測式に似たり其陰陽を說き剛柔を論ずるは甚だ妙なり其の兩儀を言ふはスペンサー氏の運動は波瀾を成すの說とエマーソン氏の二元論とに類す積極消極の二は万物に無き者なし易の說極めて眞し其の中を尊び過不及なきを善しとし滿れば缺け往いて極れば來るヿを示すが如きは感ずるに餘あり泰極れば否塞し否極れば泰通するが如きは最も吾が喜ぶ所なり唯だ臣民子弟妻子を陰柔の位に置きたるは之を卑屈にし君尊民卑父尊子卑男尊女卑を生ずべし然るに位と才とを異にし陰柔の才にして陽剛の位に居るあり陽剛の才にして陰柔の位に居るあり故に陰柔の位に居るとも若し陽剛の才あらば女權振ふべし民權伸ぶべし抑も八卦の變易するは易と名づくる所以にして大にしては天地万物日月星辰の變化に比すべく小にしては七十元素の離合に喩ゆべし蓋し八卦の變易は万物の變遷推移する所以の理を察するに於て大に益ありとす噫今日陰柔の位に居れる女子が他日變易して何なる地に居るや知るべからずと雖も唯だ其の上進せんヿを期するのみ。

〇婦人の勢力

文母賢なれば周室興り夫人諫を容りて宣王中興す呂后內に在りて漢室治り長孫后薨じて後、唐の大宗の政衰ふ呂雉權を肆にして漢殆ど亡び飛燕漢宮を亂りて社稷滅す則天唐祚を移し韋氏至尊を弑す西施吳國を滅し楊氏唐室を危ふす尼將軍は源氏の覇業を移し勾當の內侍は中將の功名を空しくす北殿の日秀吉興り淀君の時豐臣氏亡ぶ眉斧膓を斷つ誰れか婦人に勢力なしと言ふや。

〇良妻を思ふ

家貧ふして良妻を思ひ國亂れて良相を思ふ志望成らずして事業頓挫するの時、信用を失ひ、恥辱を被り、憔悴して家に歸り、鬱憂して自ら惜むの日良妻に非ずんば誰れか能く之を慰めん婦人賢なれば家を興こし婦人不賢なれば之を亡ぼす噫夫の心志事業を成す者は夫れ只だ良妻なるかな。

〇女學雜誌記者

女學雜誌記者巖本善治先生の名を聞き其の風采を彷彿する久し頃日幸にして謦咳に接す何の喜が之に加へん先生の風采吾が豫想に背かず唯だ年齡吾が豫想より若く容姿吾が豫想よりも重莊にして擧動敦厚に言語沈靜に在せり吾は是に於て欽先生を欽ふの念坐ろに相增せり願くは先生自重せられ斯學の爲めに盡力あれ。

〇異人種間の婚姻

日本人と西洋人と婚姻するヿは生物學上より云へハ當人の心身の爲めにも其の子の爲めにも宜しからずして害ありとす若し英人と佛人と云ふが如く同じアリヤン人種の一派と他派との間の婚姻ならば頗る心身の利害となるべけれども西洋人と日本人との如くに全く相異なる人種が婚姻せば大害ありとす世間の輕燥者流は西洋牛と日本牛との間に良牛を生ずるを觀て之を人類に適用せんとすれどもこは宜しからじ人類は精神の作用あるヿ牛馬と同日の論に非らず神經も亦た頗敏なればバ牛馬に害なき事も人類に大害ありとす日本人と支那人との婚姻ならバいざ知らず西洋人との婚姻ハ成るべく見合すべしすべて外國人との婚姻ハ心を異にし躰を異にし風俗を異にし感情を異にするが故に種々の不幸を招かん須く用心すべし。

〇國民之友

國民之友第六十七號ハ治安に妨害ありとて發行を停止されり吾輩平生國民之友の議論警奇文章巧妙なるを喜び其の平民主義なると基督教主義なるとを愛せしに發行停止の嚴命を被りしハ遺憾千万なり今日基督教主義の雜誌にして世に流行する

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ろ者は國民之友、女學雜誌、基督教新聞、六合雜誌等ならんが其の實高の最も多くして其の勢力の最も大なる者は國民之友なるべきに此かる運命に遭ひしは惜むべきとなりされど友ある者は亦た敵あるは免れざる所にして或は曰く國民之友は唯だ見識なき青書生を籠絡する者にて立論質着ならずと或は曰く是れは徒らに文辭を弄びて更に主意立たずと或は曰く文章奔放に過ぎて檢束なしと或は曰く空論にして實なしと或は曰く文章千篇一律にして變化なく人をして厭はしむと然れども其の實高多きを見れば愛顧者の多きを知るべきなり縱ひ少しの敵あるも亦た多くの友あるを明なりされば其の發行を停止されしを惜むを吾輩の如き者世間甚だ多からん吾輩は同者と共に之を吊せんとす。

唯だ惜むらくは國民之友は前號までは頗る條約改正を賛成せしに內閣に變動ありて黑田伯退かれ三條公進まれたると聞くや其の筆法俄に變じ條約改正に對しては冷語を用ひ「大隈伯は一歩を讓り外國判事を以て皈化人と爲すに至れり是れ實に大隈伯が其の反對論者に向てその兜を脫くの初めにして黑田內閣の將に倒れんとするを豫言するの日なりしなり」「吾人は甞て云へり本年の十二月迄には必らず何事か內閣に一變動の生ずるあらんと而して今や果して然り」「十月十七日は條約改正の有期延期と決したる日なり」「今回の變動は輿論の勝利なり」「大隈伯人と相談するの時を得て之を知らば其の日云々乃ち伯が亦た辭表を呈すべきの日なれ」「外務大臣の椅子は大隈伯が再び坐するか若年政治家の中より之を拔擢するか或は井上伯を起すか三者その一に居らん」と言へり今日斷行中止延期の何れに皈するか知れざる時に當り此く斷言し外務大臣の後役までも私撰するは何事ぞや是れ頗る人心を動搖せん政府に變動ありしとて俄に條約改正の成行を疑ひ之を延期に決したりしと言ひ以て榮枯消長を見て冷熱の情を異にするの小人に阿らんとさるゝか縱ひ黑田伯が退かれたるにせよ內閣の方針が定まらざるにせよ民友記者は已に條約改正を賛成する以上は飽くまで之を賛成せざるべからず人心の冷熱を窺ふて筆法を左右するが如きは薄情不親切の至りなり民友記者は此かる卑劣の念なきは明なれども唯だ先見の明と知機の識とを示されたる者ならん歟今ま國民之友と女學雜誌とを比較すれば要するに國民之友は巧妙にして女學雜誌は質朴なり國民之友は修飾し女學雜誌は眞率なり國民之友は冷心を以て譏り女學雜誌は熱心を以て讃む一は才子、他は淑女、一は怜悧、他は忠直、一は雄辯健筆、他は謹愼勝﨑、一は傲慢にして氣節を持し他は謙遜にして自信に富む一は英雄の如く他は天使の如く一は孟子の如く他は曾子の如く一は蘇軾の如く他は蘇轍の如し二者共に社會の木鐸にして同じく基督教の傳道者とも謂ふべき者なり。

(一)の答。　富士山

(二)の答。　人形

小說

○すみれ

第四回　殘り香　　若松しづ

真野すみれが澤部氏に訪われしより二週間ほど後の事とて、富士見町邊のある奧床敷邸內に於て、婦人文學會定期會の催しありとて、役員幷に飾付饗應其他委員の令孃令夫人は、早くも會場に集合し、それ〴〵準備に怠慢なきが如し、やがて萬の手配も大方濟み室內の飾付は委員の嗜好を滿足せしめ、「ア、あれもまだ…」「ほんにそれも氣が付きませんかつた」と取漏せし雜用も殘少なになり行、時計の針は漸く定めの刻限に迫り、「まだ時間は早う御ざい升が」と、宴會なれぬ婦人方のろろ〳〵モヂ〳〵しながら入來る頃、廣間の彼方に最前より面白そうに笑ひさゞめきながら打語う三四人の婦人あり、何れも令孃ならんが、若手なれど中に二ッ三ッ年上とおぼ敷一人、

甲　チヨツト皆さん、今日の飾付は餘ほどのお手際ですとねー、アノ茶山花と棕櫚の鉢植て、ステイヂをとんと園亭の樣に見せかけた處は、何ともいへない趣があるじやございませんか。

小づくりにて近眼鏡をかけたる令孃、

乙 わたしもさつきから見とれてしまつてゐますわ。

丙 だからなんでもとみ子の名案が出なければだめでせう、

横からだしぬけにいふは、たわむれ好の令孃、まじめで冗談を云ながらおかしく眼をぱちつかせる癖あり、

こんどはあなた方のお手際拜見としませう、ミス長井……

其プログレムを拜見ッ、

甲 サア見て頂だい、けふハ割に音樂が少ないもんだから、配劑にいくら苦しみましたか、と桃色紙のプログレムを差出す、請取つて例のまじめ顏。

丙 コーット、第一がお定まりのピヤノ、ドウェットかです、あまり感服といふ譯には參らぬな、次が"The Song of the Shirt"これもとんと珍らし敷はない…。急にうしろからプログレムを剝取、わらひながら、

甲 そんなに一々おけなし遊すのなら、お眼にかけませんよ。

丙 これは、ツイ失禮、こんどは勤一杯賞升から、どふぞモウ一度拜借、サア此通りあやまつてゐ升よ。

甲 モット先を讀んで御覽遊せ、あなただつてどなただつて、馬鹿に出來ないのがあり升から。

丙 お詫が叶つて何よりです、ドレ〳〵、それからミス原田の獨吟、續て月琴と、ピヤノの合奏、オヤッ…ミス眞野の演舌があるんです子ー、題が婦人文學の心得……、

甲 そら御覽なさい、そんなに夢中におなりなさるんだものを。

丙 だつて久振りで、蒸返しのすくない演舌が聞れると思つてですよ、こふいへばなんだか同士うちの樣だけれど、婦人の文章や、演舌といふと、聞た處ハゑらい樣でも兎角おかつたるくつて子。

甲 そう仰るけれど、何れも近頃迄作文必携に御厄介になつてゐたむきが多いんですものを、其筈じやありませんか。

暫く兩人の談話を餘念なく聞居たりしが、

乙 ほんとうに眞野さんの文章斗りは、適切ですこと子、先達も雜誌に「あわれなる我等の同胞」として水害救助の appeal が載せてありましたわ、わたしは附錄の書より何よりひどく心を打れて泣ましたが、そのくせ短かく易しく書てあるんですよ、今日のハ眞野さんの得意な演題ですから、例の凜然とした辨で、ひとつ自稱著作家を窘めて下さるといゝじやありませんか。

甲 それハそうと、皆さん眞野さんのニウスお聞なすつて?。

言葉に兩人ハ、不審を呼起されて、共に長井と云われし令孃

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に眼を注ながら、同時に、

丙「ナニ……。乙どふいふの？。

長井孃のあたりを憚る樣子を見てとり、沈着ら敷乙の令孃は、平常に似合ず悄然として、

イヤデスヨおつしやつちや、ミス眞野の名譽を傷る樣なくだらない雜談ならバ。聞て彼の快濶風の丙の令孃、

丙 だつて好じやありませんか、眞野さん位、わたしたちの信じてる朋友を疑う人があらば、承わつて置て辯解して上なければなりませんものを、と熱心に云ふを見て、微笑しながら、

甲 イヤデスチイ、皆さんは、ニウスト申した許りで、好事ともわるい事とも申さない中に、彼是おつしやつて、わたくしだつてgossipは必らず謹うと誓つた一人じや御ざいませんか、モウそれじや何も申ませんよ。ふたりは吹出しながら、

乙 だつてあなたがあんまり話し憎そうになさるからですよ、わるい事でなければ話して頂だいな。

甲 そら御らんなさい、やつぱりお聞なさり度癖に……、マアよつぽどロマンチックな、小說にでもありそうなお話して、どつちかといへばわたくしたちが、ミス眞野に對して尊敬を增位な事ですは。

丙 それじやあ倘更謹聽、そも〳〵からお始なさいな。

甲 ホラ大學のプロフェツサアで、澤部とかいふ人子、ミス眞野のアドマイラアの一人だといふ？。

丙 ナニ！あの黑ひげ威しといふ樣な人ですか？。

甲 マアまぜつ返さないで、聞て頂だいよ。それが近頃ます〳〵きつい御執心といふので、ミス眞野の口から判然した返答を聞に、わざ〳〵お宅迄入つたんですと。するとかたくお斷りにでもなつて、落膽なさつたものとみえて、澤部さんは病氣と云立て、直ぐと熱海へ御出立なさつて、今にお歸りがないそうです。サア其事に付て、あるミス眞野の身の上をよく知つて居る人が、すみれさんはあの人許りじやない、どんな人が來たつて承諾する氣遣はなかろう、あの人には深く情を運だ人が外にあつたからと、いつたそうです。

乙 マアそれまでに、ミス眞野に思はれてる果報者は誰れでせう！。

甲 ところが、そこが倘ロマンチックなのです。そのラヴアといふのは、六年まへ、ミス眞野の卒業なさる年になくなつた人ですと。其人はミス眞野のおつかさんの從弟とかなん

とか遠い親類で、まだ眞野さんの生れない先から家に育られてゐたのださうですが、ミス眞野がお生れなさつた時に、正人さんのお嫁が出來たなんぞつて、人がからかつたさうですが、何しろ年が十三四もちがふものだから、ミス眞野を可愛がつて遊ばせてやつて入しやつたところは、まるで叔父さんか何かの樣だつたさうです、そうこうする中ミス眞野の十三の時、おつかさんが病氣付ていはゞ其正人さんといふのを、ガアヂアンの樣にミス眞野の事を一切任せるつて安心しておなくなりなさつたのですと。それから正人さんは醫學を修めながら、孤になつたミス眞野を、父母に代つて慰め敎へて入しつて、ミス眞野の方では雄々敷つて、雄々敷からまた眞にやさ敷正人さんを、師とも兄とも思つて依頼んで入しつて、正人さんのほうでは、ミス眞野がある爲めにわるい書生なかまの中へも這入らず、たゞ元來立派 noble に生付たミス眞野の段々發達するのを樂みにして、兩人の間柄は余處の見る眼にも實に美敷かつたさうです。そうして兩たりの間の信用と淸い愛の結果が、知ず／＼將來に付ての默認 tacit understanding. になるかならないに、此上もなく壯健であつた正人さんが、何か急病で、覺ない眠に就てお仕舞なすつたのですと。余りおもい掛ない事で、當分はミス眞野は泣もなさらず、一時はまはりの者がひどく心配したろうです。今でこそ側に來てゐる叔母さんにだつて、御自分のことなどは打あけた話をなさらないほど、多少嚴格な人物と見られる樣におなりなさつたけれど、此刺激 shock が生涯の方針を變るまでは、誠にあどけない可愛ら敷かたゞつたさうです。

乙　マアそう。併しわかい内の戀人に同伴するものは尠ないといひ升から、ミス眞野だつて、此後また幸福なホウムが出來ないともいへないじやありませんか。

甲　それも鳥渡はそうおもひ升けれど、わたくしに此話しをして聞せて、よくあの方を見貫て入しやる方が、すみれさんには、云ハゞ心にゆるした眞人がある樣なものだから、重て、他の人にゆるすといふ事はあるまい。もし強て人に嫁けバ、もぬけの心を貰ふ人に對して却て不正だと思ふ程だろうと云ましたよ。わたくしたちの見る處では、敎育や文學に余念なく熱心に働いて入しつて、假にもそんな履歷のあつた方とは思へませんチイ……。マア夢中でおしやべりをしてゐて、モウ時刻が十五分過てますよ。

（終り）

開書

○女學雜誌記者に呈す

岸部古狂生

女學雜誌記者足下余は女學雜誌の新聞紙條例に遵ふたるに因り世評の喋々たるを聞き足下の爲め聊か余の所感を陳述するを敢て無要に非ざるべし」余嘗時讀賣新聞の記者が評して「…蓋し彼れは聖使なり汚穢社會の汚濁を掃せん爲めに生れたり然るに今回學術雜誌を癈して新聞條例に從つて紛雜亂調なる政治界の事項を記載せんとは嗚呼是れ記者の天職にあらず」と云へるを見思らく記者必ず辨解あらんと記者果して百八十三號に於て其意見を陳述せられたり余亦た斯くあらんとを期したり然れども其後鷲島史の嚴酷なる忠告あり或は雜錄を見るに激しき人は烈しき書を投し親切の人は親切に諌め來れりとあるを見れば女學雜誌今回の改進は世人に向て非常の感覺を與へたるものと云ふべし然れども是れ世人が記者の目的衷情を察せざるの誤謬に出たるものならん余は確く信ず記者は決して天職の外に出たるに非ざるとを否な記者の天職を完ふせんが爲め今回の改進を致せる所以なるべし想ふに世人は婦人は政治に干與せしむべからずとの舊思想より斯る批評を試むるに至りたるならん況んや記者の意を誤解せるに於てをや假令ひ記者が政界の事項を論議するものとするも記者既に「其の要とする所は專ら女學的に在るを以て着眼皆な婦女子の爲めにするにあらざるはなし」と云ふ所を以て見れば記者は決して天職外に出たるに非ざるを明かなり」記者足下今尙ほ記臆するならん一昨年國民之友に於て日本婦人論と題し日本婦人は宗教上社交上及び政治上の三點より改良を計らざるべからざるとを論じ記者亦た之を贊成したるを然らば記者の目的は彼の三點に在りて之を成就するは是れ記者の天職と云ふべし而して記者が既往の經歷事業を觀るに最も熱心に汚穢社會の汚濁を掃蕩せんとを期し幾分か女性の品位を高して女性の德行を振起し婦人をして快活光明の天地に逍遙せしむるの機會を惹起したるは記者の功亦た偉大なりと謂ふべし然れども記臆せよ記者の天職は未だ其半ばをも成就せざるなり看よ前途遙々未たカナンの地に到着せざるなり想ふに記者今日までの事業は重もに精神上社會上に向けられたり余は今後尙ほ此點に向て働かれんとを望む現今の時勢上殊に其の必要あればなり然れども尙ほ進て須らく政治上より觀察を下して女性の改良を計らざるべからず婦人は政治上の要素なるを記臆せよ是れ記者の天職を完ふする所以なり彼の記者を評するものは未だ記者の目的を知らざるものなり而して記者を以て某政黨に加入したりと云ふが如きハ最も記者を誣ひたるものと謂ふべし記者それ世上の批評異論に躓くとなくんば可なり余は女學雜誌が一段の改進したるを喜ぶ日本現今の社會は實に今回の改進を促したるものなり否此の改進を要するものなり「野に呼べる人の聲あり云く主の道を備へ其の徑を直くせよ」今日の社會は實に斯の如き人を要す誰か此の大任に當るものぞ記者それ我が兄弟姉妹の爲めに絶叫せよ涙を流して世人を警醒せよ「涙と共に播くものは歡喜と共に穫らん」記者の熱心なる所以此の希望に外ならざるべし記者幸に之を諒せ焉。

交詢

●三河農夫君、牧畜書類中にては農商務省版の牧畜全書二冊(二圓廿五錢)同版の畜產著殖法(一圓卅錢)など宜しからん、又鷄の畜ひ方は村上要信氏の養鷄の栞(七十五錢)奥山中川兩氏の殖鷄秘法(十八錢)同しく病には村上氏の鷄病治方(卅錢)など宜しきかと思ひ升●都の賤の女と云へる方、着物にペンキの着たを取る法は石炭油に浸した布で拭ふのです、紺綿布などに墨の着たのは墨の乾かぬうちに飯粒を擦り附け夫を水で洗ふのです、モチ(黐)の着たのは大根の汁で洗ふのです、煙草のヤニの着たのは生味噌の汁で洗ふのです、又油の附たのは大根の汁でも宜く或はフノリを其處につけゆる〳〵揉みても宜ろし斯て后ち何れにせよ之を熱き湯にて洗ふのです●一人の母樣、いろ〳〵の遊び方を知る本は文部省版に童女筌と云ふ本もありますが、手近なのは金港堂版「遊のくら」と云ふが善いです價も僅か十二錢です●東京に一致教會は幾つある乎との無名氏の問、只今の所ろでは二十です●國民之友はイツ解停されやうとの問、之は誰も知らぬとで内務大臣御一人しか承知ないとですが、先づ新聞ですと一週間とか二週間とか極く輕るくて五日とか云ふので、夫丈の日數が立てば直きですが雜誌は一回發行を一日と見做されるのですから、極輕い停止で五日分と見ても先づ國民之友ならば凡そ二ケ月は停止となります、「日本人」抔も九月五日に停止されて十月二十日に許されましたが之もちやうど五回分ほどの停止です、前年吾れ女學雜誌の事を思ひ實に思ひやります兄弟の病氣の樣に感じます●井上つる子樣、ニシンのしぶみを取る法は白水に五日六日漬け置き能く洗ひましてユデル時火箸を燒て鍋の中に入れジウ〳〵とすると奇躰に拔けます、又水に浸し泥き後ちアクで洗ひ其后ち水で洗ひ清めて煮ても善いです●山下老人より酒の造り方、卷煙草の商況のお問、之は主義の上からお答へするとが出來ません●西京一女生樣、婦人白標倶樂部は會員がまだ十人位しか無いやうです、然し求めて部員を殖されないとの由です、婦人矯風會とは全く別物です。

時事

（十二月脫稿）

○滿目凄慘

長連正氏等、芝區長丸田正盛氏に向て決闘申込み。大森村島田源兵衛氏等外七名、東京府會常置委員宮本賴三氏に向て決闘申込み。同じく又長連正米田吉三郎兩氏に向て決闘申込み。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

横濱の壯士三名、二宮忠周氏に向つて決鬪申込めり。又曹洞宗管長及び執事は巡査に懇請して自己を護衛せしめ。曹洞宗務局及曹洞宗議會にも亦巡査を置て護衛せしめ。同宗の二僧近藤疎賢羽柴達玄二氏は此事の不條理を述て天下の志士に訴へんとし。横濱公道俱樂部員は市會議員が復職したるを怒りて數十名の示威運動會を催うすものあり。我政府は法律第二十八號を公布して議會及び議員に對する亂暴を制止したり。」紛々雜々、世道極めて亂る、悲しき哉。

○眞正の紳士

外國に所云るゼントルメンは日本の紳士と異なる天地のごとし、朝野新聞に在倫敦尾崎行雄氏の紳士說を載す、プーランゼーの猾智を暴ばきたる后に於て此篇を寄せらるゝと甚いた佳なり、云く常に高尙なる思想を懷て偏私我儘の擧動を爲さず、信義と名譽を重んじ其良心を欺かず國家の爲め與衆の爲めには一身一家の利害を忘れて盡力奔走至らざる所なき是英國紳士の本色なり、勇武にして粗暴ならず温雅にして柔弱ならず是れ英國紳士の本色なり、强を畏れず弱を侮らず一諾千金能く義俠の行を爲す是れ英國紳士の本色なり、寡言深沈威有て猛からず是れ英國紳士の本色なりと。吾人は如此き說の日本新誌上に現出するに至れるを賀す、ミウロック娘其小說に題して云く、ジヨンハリフハツクス一紳士と、嗚呼今俗の所云る紳士の如きもの豈に眞正のゼントルメンならん哉。

○戶々鷄鳴を聞く

家禽を畜ふと彌〻流行せんとするの兆しあり、豕又は兎の流行と違い甚はだ喜こぶべし、何卒戶々數羽を養なひ、其の快ちよき聲によりて俗情を散じ、其樂しき交わりを見て一家を和し、其養ひ多き卵を用ゐて身躰を健やかにせんとを望む、而して之を飼養するの任は一家の細君に在り、飼い方別段六かしきものにあらずして、至つて面白きもの也、英國女王は宮庭に於て親ら之を飼わせ玉ふ、神代に於て天照大神を誘ない參らせしも鷄鳴に非らず乎、婦人諸君一藝として之を試ろむべし。

○速記法

此頃ろ速記者諸君の懇親會ありしと聞けり、斯道の追々に隆盛となると實に賀すべし、然るに每度吾人が勸告するに拘わらず未だ婦人中には此業に就くもの多からざる如し、之れ一の大遺憾にあらずや、米國に於ては婦人速記の事追々隆盛となり、僅かに數ヶ月間の稽古を爲したる丈にて、月に四五十

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

弗の給料を受る女書記多し、而して公私の何れに於ても此の如き女書記を用ひたる以來事務上殊の外の便多しと云へり、米國女學士ボアン曰く、速記術は女子に最も適切なる學藝也何となれば女子は男子に比すれば一層綿密ある性質を有すればば也と、吾人が言ふ所ろの理亦如此し。

○女子法學博士

此頃ろ諸新聞紙上に傳唱する女子法律學校設立の事は、實に一婦人の何如に熱心に何如に有爲になり得る乎を實證するもの也、其設立者法學博士エミリー、ケムペン夫人と云ふは、元來瑞西の人にて尙若き時長老派の一宣教師に嫁し數年間は只だ家事にのみ忙はしかりしが、既に一子を擧て之を愛の腕に抱く比ろより頻りに學問の志深く何がなして己が心を研きたしと熱望したるに(既に人に嫁したれば最早致方なしと云ふ人々お考あれ) 其良人も甚はだ之に贊成し、いよ〳〵暇まを以て學問することとなれり。最初は古文學の講義を聽き、又た羅馬法の講釋を聞きたるに、此時より切に法律を學ばんとの志を決し、幸はいヅウリツヒ大學と云ふ彼のコロムビア、エール、ハーバードの諸大學よりも更に有名にして更に自由ある大學ありければ、女性なれども許されて直ちに入校し、法學專門に學びし所ろ、多くの學生中に嶄然頭を現はし遂に法學博士の榮位を得て卒業したり、之より直に法廷代言人とならんとしたるに國法を以て退ぞけられたり、輿論も亦た夫人に加擔して國法の非なるとを訴へたれども、久しき習慣上止を得ざるとありてか決して許されざりしにぞ、暫らく其近邊に於て法律講義塲を開きたるが、其后殘念ながら故國を棄て、彼の自由なる米合衆國に渡り、尤も繁華なるニウヨーク府に來りて代言業を開けり、但し法廷代言人とあるには州の法律ありて若干年間土地に住居せざれば出來能はぬとゆへ今は尙ほ申込まざれど追ては其望みあるとなるべし、現今は一男法學士を雇ひ之をして代りて法廷に出席せしむと云へり、而してブロウドエー第百六十五番の私宅に於て此業を營み、東第九十二街に於て女子法律學校を開設し、毎日二時間の講義を以て二年間教授し、卒業后は法廷に入るの資格あらしむと云へり、一婦人にして女子法學專門學校を開きたるは蓋し之を以て最始となす。

○決鬪條例

宜しく決鬪條例を發布せらるべし、非理を斷じ公法を裁するには政府の在るあり、政府を置きて我儕に曲直を凶器の上に辨ぜんさす、啻に其行爲の醜陋なるのみならず、政府の威嚴を損する少なしとせず、願はくは未だ決鬪を以て名譽の仕合さ思ふに至らざる前、早く其取締あらんとを、吾人は麗美なる風俗の殺了せられんとを恐るゝ也。

○小西湖

共同競馬會社の秋季競馬、去る十日上野不忍池畔の圍馬場に於て執行されたり、吾人は此際公衆に告ぐ、著名なる小西湖の風致は之によりて美を増せりや否や、紅塵十丈の馬場彼の雅なる湖水を濁し、人をして親しく水畔に近づかしめず、靈林影を映ず水鏡面の風光は半ば俗了せられたり、若し西洋人の如く公園に注意するものならしめば、斯て置くと夢にもあるまじ。

○洪水の迹

本年の水害は慘烈慟哭するに堪へたり、今ま和歌山縣下丈けの被害表を見るも、全く荒れたる田地七千〇二十四町七反歩、收穫減り石數二十万四千百五十一石、家の全く流れたる者三千五百廿三軒、死人一千二百二十六人、手負三百六十三人、牛馬の死せし者二百六十五頭、動產不動產損害の總金高八千八百五十四万八千百三十五圓なりと。而して奈良福岡大坂仙臺等諸地方の蒙りたる損害も、亦殆んど同樣の額に近しと云へり、痛ましき事ならずや、將冬いよ〳〵近づき衣物のみならず住ひまで奪ひ去られたる我同胞は、今后抑そも何如に爲すべき乎之を思ふときは吾人徒らに安んずるを得ず。

○政黨は解散せよ

此れ甚はだ淸く且つ賢こき望なり、國會開設前に於て多くの行掛りを造ると勿れ、實際問題なきに當つて多くの由來經歷を印するを勿れ、今日の政黨は黨員必らずしも黨員に非ず、反對黨必らずしも反對黨に非ず、中立黨未だ必らずしも中立黨に非ず、加はりて反く政黨員あらんよりも、入らんとして躊躇する掛念あらんよりも、出でゝ一層に敵視する遺恨あらんよりも、寧ろ潔よく政黨を解散すべし、而して來年國會初めて開くるの時よりして創始眞正の二大政黨を組立つべし。

○彼の醜陋人

やまと新聞は風俗壞亂の名を以て發行停止せられたり、其他切手骨牌の類十有餘種亦同じく風俗壞亂の名を以て發賣禁止せられたり、然れども吾人が屢ば長吁する綺草紙店頭の繪は未だ取締らるゝとを得ざる乎、日々新聞も再び賛成したり、東京新報も同論なり、教育時論も同說なり、教育週報も同論なり、綺藹會雜誌も同論なり、いらつめも同論なり、文明の母も同論なり、要路の人宜しく注目あるべし。

○監獄改良

監獄の改良せざる可らざるや久し、志士仁人の之に着目し痛論するや亦久し、然るに近來其機運漸やく熟し、公私上下亦た之に注意するに至れり。既には內務省參事官屢ば各地方の監獄を巡視し、遂に監獄則の改正を促がすに至りたるが、若し眞正の司獄官なきに於ては明法も遂に不正の徒法となるが故に、山縣內務大臣洋行中獨逸國に於て原聘せられたる監獄學教師近々渡來し、將に右練習所を開かれんとする由、監獄法の如此く着々改良せらるゝは甚はだ賀すべし、此上は仁惠博愛の慈善者出で來り、完全なる良法則に更に一片愛慈の心情を加え之を活動せしむるものあらんを祈る。

○牢內の光

一致教會の執事諸君會議する所ろあり、各監獄署內に基督教傳道の方法を相談せられ、近日之を總會に呈出し、議決の后ち官に請願する所ろあらんとすと云へり。

○大日本教育會

吾人は大日本と冠する協會の簇々しく進步したるを聞かず、特に「大日本」と「貴族的」との二反意を含蓄する大日本何々會なる者に於てハ、更に其會運の進むを聞かず。大日本農會は如何ん、大日本山林會は如何ん、大日本水產會は如何ん、會運益々隆盛なるや、而して今ま大日本教育會に於て又々規則を改正せられたるを聞けり、果して之にて都合よき乎、但だ吾人は總べて如此き協會に希望す、何の規則改正よりも、先づ平民的に、獨立的に、自治的に改正あらんとを。

○女　報

○行啓　皇太后陛下には去る八日午后一時御出門上野公園內美術展覽會へ行啓。

○華族女學校生徒　皇太后陛下は去る五日華族女學校生徒德川、杉、高崎の令孃を青山御所へ御召きありて席上諳等を御覽ぜられたる由。

○女子職業學校卒業證書授與式　神田一ッ橋外なる女子職業學校にては去る十二日午前八時より本年七月卒業せし生徒の卒業證書授與式を執行し同九時より午後四時迄生徒の製造品を陳列して衆人の縱覽に供し望の者へは該品を販賣せり。

○女子獨立女學校　四谷なる同校はいよ〳〵去る七日より開校あり校長は加藤とし夫人と定れり。

○高等女學校　矢田部良吉氏が改進新聞へ對する訴訟は鳩山法學博士切りに仲裁試み中。大儀見元一郞氏は教頭の格を以て甚はだ熱心盡力中。

○歸朝來朝　去五日入港ベルヂック號にて峯尾榮嬢、櫻井鷗者歸朝、又青年會のスヰフト氏夫婦來朝。

○橫濱義捐會　去九日橫濱山手フヱリス女學校に於て橫濱禁酒會發起の水害義捐音樂會あり、學生及び西洋人十數名出席し洋琴清樂日本樂等を奏し來聽者四百名。

○金澤英和女學校　校長は國祭日に休業せざるとに付談判を受たり。

○神奈川師範學校女子部　十一日の縣會にて一名の多數により存置するとに决せり。

○女生徒の結髮 雲州松江尋常師範學校女子部福充生は同校舍監より以來結髮は銀杏返しに一定すべき旨達せられたり。

○山口師範學校女子部 にては此度科程中へ裁縫科を設置せられたり。

○山梨英和女學校 にては去る二日開校式を執行し校主新海榮太郎氏の同校に關する來歷教師ブランクリンシプル女史の演說生徒諸氏の答辭並に唱歌等ありて頗る盛會。

○看護法教授 函館病院にては本月より志願者の爲め月謝席料なども受けず看護法を教授せらる。

○純然男女同等 米國合衆聯邦中のワイヲミン州にては二十年前より或事に限り女子にも議員投票の權を與へ來りたるが此間の經驗により女子に公事を言わしむるの憾に害なきのみならず大効あるを信ぜしものか本年に至り州の憲法を改正し一身上、法律上、政治上、純然たる男女同等の制となせり。

○ウイラード女史 五十年の壽を祝わんとて去九月二十六日多くの人、多くの會は喜こび集まれり。

○グラッドストン氏の令嬢 は英國カムブリッヂ女子大學部の卒業生にて、次に副校長セッヂウイック夫人の書記となり、次に之に嗣で同副校長となりしが、此頃ろ雜誌記者となりたり。

○一千圓 アメリカの有名なるユウスコムパニヲン雜誌社は最良の裝飾意匠を考へ十二月一日前に送るものには一千圓の賞金を與ふ。

○女宣教師 又一人の女宣教師出來ぬ、組合教會に屬し名をアベー、ヒンツクレー夫人と云ふ。

○佛國下院 議員の候補者たらんとてポトニエ孃、セント、ヒレール孃、ヂウ、バルセール孃三人進み出でたり。

○天笠 ラマバイ女史ライダー女史の盡力により印度ボムベーに「ボムベー女子ソロシスクラブ」出來んとす。

○娼妓全廢會 の万國連合會は三年目に一回づゝ開くとにて其第五回を本年九月瑞西のゼネバにて開きたり、佛、獨、伊、西、露、日、和蘭、那、スエーデン、印、英、蘇、米等より代議員等會したり、バットレル夫人は其人の病氣にて來會せず、但しレビット夫人は折よく會合したり。

○ウイラード自叙傳 の收益は二三万弗あるよし之を一切婦人禁酒會へ寄附せられんとす。

○新誌

朝野新聞 六日 別れに臨んで一事の伊藤伯に質さんと欲するものあり●七日 佛國總撰擧の結果●八日 接前●九日 接前●十日 法律第二十八號を讀む●十二日 紳士

政論 六日 施政の方針●七日 內閣諸公に望む●八日 國會創開の前日●九日 寶國の商人●十日 承前●十二日 政府の威權

時事新報 六日 重きを北海道に置くべし●七日 社會の交際に流の淸濁を分つ可し●八日 元勳優遇●九日 雜閙政府●十一日 接前●十二日 議會弁に議員の保護

東京新報 七日 秘書官と俱樂部●八日 警察に付き一言す●九日 論者の反省を促す●十日 議會及び議員保護の法律●十一日 內閣組織の困難は一朝にして除くべからず●十二日 府縣制郡制に就きて

日々新聞 七日 餘勢を外國人に及ぼす勿れ●八日 風俗壞亂の注意●九日 議會並議員の保護●十日 外交事務を如何する●十二日 橫濱市會の解散

報知新聞 七日 條約案を中止する者あらば之を實施するよりも一層洪大なる利益を日本に與へ得るの保證を爲さざる可らず●八日 接前●九日 天下後世に耻つる所なし●十日 議會議員の保護規則發布せらる●十二日 接前

毎日新聞 六日 施政に對する責任を明にする慣例を開くべし●七日 政治家獨立思想の必要●八日 接前●九日 橫濱市會議員の拘引●十日 議員保護律●十二日 大森村探濤場許可の紛擾●條約改正論日々

日本 七日 改正談判の局面を縮少すべし●八日 政黨及內閣●九日 承前●十日 承前●十二日 善後策如何

讀賣新聞 六日 井上伯外務大臣とならるべしといふ風說は信ずるに足らず●七日 大同俱樂部と大同協和會●八日 政黨解散すべし●九日 接前●十日 議會議員保護規則と橫濱市會議員の拘引●十一日 井上伯の談話を讀む●十二日 改進黨と大同派とは聯合一致すべからざるものに非ず

○新刊

○愛の泉 大坂土佐堀五丁目 乾坤社每月一回發

○公教雜誌 東京猿樂町六番地 天主堂每月一回發

前は大坂聚公會の有志背年より出版するものにして第一號には日本の傳道、福音書中の一女傑など題せる論說あり、其他雜錄、寄書、史傳等皆淸くして勢ひあり●公教雜誌は天主教堂より發行するものにて第一號には羅馬法皇レオ十三世の傳及び從教と學術との關係論あり又精細なる圖畫二枚を附したり●此頃は宗教社會より續々雜誌を發刊するに至れり、法教の獨り山にのみ隱れず世に出で來るは賀すべきなり、而して近來旣に現われし者の外に、植村正久君は每週一回及び每月一冊の宗教的雜誌及新聞を發兌せんとし、星野光太郞君は月一回の傳道雜誌を出版せんとし、加藤覺氏は「教義」を月一冊宛發行せんとし、北山初太郎君は浸禮教會の爲に月刊の雜誌を發行せられんとす。

〇報知新聞、天下後世に恥る所なし

其九日紙上の社說は何にたる文辭ぞ、平素溫厚謹愼にしてアッパレ敢黨の人々をすら敬服せしむるの趾あるに關せず、此日の述懷の何んぞ驕慢なるや、斷行派の輿論は啻だ大隈伯の傷けられし一事のみにて蹉跌し、中絕したる乎、若し然りとせば必らずしも長言すべき事にあらず、記者云く我は規律を守り彼は規律を破る我は正爭を行ひ彼は殘惡手段に依賴す我をして一時中途の蹉跌を致さしむるも其恥彼に在りて我に在らず又何ぞ天下後世に恥る所あらんと、天下後世の事は暫らく言はず、記者が如此き言辭は記者が平常の謹愼なるに對して恥づる所なき乎。

〇薩長は夫婦の如し姉妹の如し

時事新報記者は云く、薩と長とは夫婦の如し薩の剛毅なる長の優美なる外に在ては妻は夫に屈し內に在ては夫は妻に服す時々に風波の縺あるも適ま々以て其情を密にするに過ぎずと。讀賣新聞記者は云く、左れども夫婦は離縁して元の他人に返へることなきに非ず或人之を二子の姉妹と云へり成程薩長は同時に生れ花菖蒲杜若の如く似たりく\折に觸れては喧嘩することなきにもあられど姉妹の縁はどこ迄も逃れずと。然し女學子をして言はしむれば夫婦にても姉妹にても斯る間柄の者に非ずお互が優らうが劣らうが左様の事には少しも頓着せず一方の出世は我身の出世と思ひて喜こぶが夫婦姉妹の情なり身代の爭とか相續の葛藤とか威權の釣合とか云ふものは少しも無きを也薩長は果して然るや否や之を知られど夫婦姉妹などの神聖なる間柄は濫りに例に引かれたくなし吾人をして評せしめば薩長は男贇生の朋友の如し男諧生の義兄弟の如しと云ひたし廉頗藺相如の如きもあれば陳余張耳の如きもあり何れに解釋ありても差支へなし。

〇島田三郎氏條約改正論

五閣跡既に解散し、併に中止延白の効なきのみか、最早や斷行建白の聲すら聞えざる時、乍ち島田君の條約改正論出で、混々たる千万言每日新聞紙上に滔々さして洪流す、恰かも是れ兩軍既に退き、一騎橋畔に殿立して演說するに似たり。議論四章あり、第一內地雜居、第二法制論、第三條約改正沿革史、第四政界、而して法制論中の憲法解釋論、及び政界論特に秀でたり、從來斷行家は既に斷行說を言盡し、中止論者は既に中止說を言盡したるに、最后に於て思はず氏が論を聞く、卓秀非凡の着眼只はだ少なからず、特に政黨僻に曲げらるゝとなく立論專ぱら愛國の眞情より發し、文字の極めて忠實に且つ慨氣ある所尤も服すべし。兩軍共に顧みて靜かに聽取せざるとなし。

〇經濟雜誌と兩毛鐵道會社

兩毛鐵道會社こそ流行の紛紜あるまじと信じたるに、去年末以來彼此と風評するものあり、今年春以來其聲段々高くなり、最早今にも破裂して役員改撰の相談會開かるゝ乎と心配したるに、サスかは有眼の人少なからぬと見へ、最も穩やかに濟まり、降雨あつて地淸まるものか、今は反つて一層の靜謐に歸せり、此時に當つて田口卯吉氏が主筆たる東京經濟雜誌が、田口卯吉氏を社長とする兩毛鐵道會社の事を論ずるの文あり、經濟雜誌第四百九十四五の兩號に出づ。之を見るに細かに此紛紜の起れる所以を解すると經濟學者が冷然として社會の激變を解するものゝ如く、明白、公平、毫も隱さず毫も辨ぜず毫も傷むる所るなし。吾人は田口氏に向ふときハ其自信の重厚なるを祝すべし、經濟雜誌に向ふときは能く其任を盡せるを賀すべし、若し夫れ兩毛鐵道會社に向つては斯る社長を得たるとと斯る經濟家に論評せらるゝの幸なるとゝを慶すべし。

週報

〇官令　去る七日法律第二十八號を以て議會並議員保護の件を裁可公布せられたり

〇宮廷　明治二十三年御歌會始の御題は「寄國祝」と仰出されたり●皇太后陛下は去る八日上野の美術展覽會へ行啓あらせられたり

〇政治　去る五日各大臣は內閣に參集して會議を開きたり●三條總理大臣は去る六日內閣に出頭し夫より御前に伺候したり●栃木縣下の條約改正斷行派の有志は去る七日より十七日迄各郡に於て演說會を開く由●八日外務次官青木周藏氏は樞密顧問官を兼任せらる●曾我東宮太夫は去る三日皇太子殿下の御敎養主任を仰付らる●各大臣の護衞は外務大臣の遭難以來附せられたるが去る八日舊に復したり●土佐の舊自由黨と舊帝政黨の兩派は去る五日同所に於て親交を開きたり●去る四日伊藤伯小田原へ歸着せらる●去る四日法律取調委員會は中止せられたり●伊藤博文品川彌二郎の兩氏去る五日歸京せらる

〇外交　米國公使スィフト夫人并に令孃は去る六日大隈伯の病狀を其官邸に訪問したり●御雇司獄官墺國人フォン、ゼー、パッパー氏は去る九日橫濱來着せり

〇文學　帝國大學法文兩科教授學生有志諸氏は史學會なるものを設け去る一日其發會を開きたり●神田中猿樂町に設立せられたる國語傳習所にては去る十日より開講せり

〇教育　大日本教育會にては去る九日臨時總集會を開きたり

〇宗教　駿遠豆三國の眞宗本願寺、大谷、高田三派の有志者は去る三十一日元老院へ出頭し僧侶被撰擧の件に付き建白書を差出せり●石川縣下の眞宗大谷派の有志者は去る六日元老院へ出頭して僧侶被撰擧權に付き建白書を差出せり

〇會社　甲信、日向兩鐵道は去月卅一日許可されたり●東京手絲紡織會社は去る八日株主總會を開きたり

〇新誌　やまと新聞は去る四日停止せらる●去る五日遊戯器并飲食用紙取扱心得と題する出版物の發賣頒布を禁せらる●福陵新報は去る七日發行を停止せらる●北陸新聞去る九日發行停止を命せらる

〇雜報　米國船チイスプロ號は去月三十一日奧州七里濱沖にて沈沒せり●去る七日橫濱公民派三級議員諸氏は示威運動會を催ふせり●去る十一日內國大博覽會事務局に於て博覽會臨時會議を開きたり●大森村金子七五郎氏外數名より宮本組三長運正米田吉三郎三氏へ去る八日決鬪狀を送れり●千葉縣下の有志者は去る九日千葉町梅松樓に於て同志大懇親會を開きたり●去る八日木挽町商工會議所に於て全國菓子商大會議を開きたり●名古屋の壯士は去る六日同地袋町教泉寺に會して壯士俱樂部を設立せり

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

會報

婦人白標俱樂部規則

第一條　本會は婦人白標俱樂部と稱す

第二條　本會は同好の姉妹相會して社交上の懇話を爲すを以て目的とす

第三條　本會は每月第一土曜日を以て談話會を開く會場は每會幹事より通知すべし

第四條　本會の事務所は假に京橋區舟松町十三番地に置く
但時宜ニ依リ臨時開會スルコアルベシ

第五條　本會は幹事二名を置き會務を所理せしむ

第六條　本會の幹事は每年六月の總會に於て出席會員中より互撰し此任期を一ヶ年とす

第七條　會員たらんと欲する者は會員の紹介により幹事の承諾を得べし

第八條　本會員は通常名譽の二種とす
但名譽會員ハ第十二條ノ義務ヲ負ハザルモノトス

第九條　會員退會せんとする時は其旨幹事に通知すべし

第十條　本會は躬行を重んずるを以て會員中本會の體面を汚す者あるときは之を謝絕し其會票を收むべし

第十一條　本會に於て每月月報を出版し無代價にて會員に分配す

第十二條　本會の費用に充つる爲め每月會員は金五錢を收納すへし

第十三條　本會は有用なる內外の書籍及び雜誌を購入して會員得智の材料に供す

第十四條　本會は每年六月十一月を期して總會を開き本會に關する諸般の事務を評定す
但至急ヲ要スル時ハ幹事ノ協議ヲ以テ臨時總會ヲ開クヿヲ得

明治廿二年九月

婦人白標俱樂部　幹事　工藤佐野
相良龍

廣告

本校此度新築落成し教則を改良し女子必要の學科を懇切に教授す口下若干名の女生徒を募集す入學望みの方は至急御申込あれ教師は內外人數名月謝一圓束脩一圓寄宿料三圓

橫濱居留地山手二百四十四番

橫濱英和女學校

每土曜日發兌

東京經濟雜誌

政治文學及商業上之要報

第四百九十五號目錄

明治二十二年十一月九日發兌

◎官令(數件)

◎社說●立太子式●會社の紛紜を論して兩毛鉄道會社の改革に及ぶ●護衛巡査い騎兵に易ふべし

◎日秘鑛業會社に就て●文學士井上哲二郎氏著內地雜居論を讀む

◎寄書●米國人の企業心●筑後川洪水之詩賦

◎雜錄●立　皇太子の御式●黑田伯及び伊藤伯●政海の波瀾●二伯二子の會合●電話交換●內外生糸商紛議の和解●九月中外國貿易の景況●九月中足利物產市塲取引統計表●日秘鑛業會社●亞米利加綿の買占●支那綿價の騰貴●井上伯の政黨論●井上伯の名言●東京府の機密費●辭職すれば紛擾す●紛擾し復職すれば紛擾す●非條約改正案同盟の解散●秋田の中止黨●九州同志委員會の決議●鉄道彙報●東京灣の築港●織物陳列室●川田日本銀行總裁と大坂同盟銀行●神戶貿易商組合規約改正案●神戶燐寸の景況●贋造銀貨●獄制沿革史●明治風雅集●前週間の記事

◎金融及商業の景況(數件)

◎定價●一冊現金七錢●十冊前金六十五錢●半ヶ年分前金一圓五十六錢●壹ヶ年分前金二圓八十六錢●府外は一冊に付郵稅五厘增

東京京橋區彌左衛門町七番地

經濟雜誌社

少年園

少年園ハ少年世界の鍾愛兒なり、未だ世に競爭者を得ざる特權の君王なり、横行の將軍なり。號を重ぬる既に二十有五其一を加ふる毎に園友を增すの多きは、猶ほ少年園の草木が日に繁茂し、綠林鬱蒼、紅花爛熳の美を添ふるが如し。今や實に我が園友は一萬八千の上に出で、少年園の地盤は牢固を極め、少年園の林泉は風致漸く雅趣を呈し、苔色青く水聲清く、其名は既に蝦夷韃靼の天より琉球夜光の海に至るまで徧く人の知る所となれり。是れ一に愛顧諸君少年諸君の賜にして、園主の深く諸君に謝する所なり。嗚呼何を以て謝すべきや、我等は唯是より更に園地を開拓し、新たに奇草珍卉を移植し、老園丁を呼び巧橐駝を聘し、少年園の美をして一層の天眞を發揮し、一層造化の妙を得せしめ、日本固有の園藝に西洋斬新の肥料を施し、終に少年園をして少年諸君の一大樂土たらしむるに在るを知るのみ。少年園は益〻勉勵して事に從ふべし、少年園は愈〻改良して步を進むべし。少年園の噴泉は實に甘露泉なり、少年園の樹林は實に蜜果を結ぶ仙林なり。世の少年諸君來り遊べよ、益〻愛顧の步を枉げよ。

東京府下北豐島郡上駒込村山縣悌三郎邸内

少年園

一、本誌は中學校及高等小學校生徒の學力に相應せる文藝學術上の事柄を採錄し、娛樂と裨益とを兼ね與ふるものとす

一、本誌は務めて文字を平易にし、文章を流暢にし、間々假名を附け、精密美麗なる圖書を插み、以て讀み易く解し易からしむ可し。

一、本誌は每月三日、十八日の二回に發兌すべし。

一、本誌は一冊定價金五錢、十二冊(半ヶ年)前金五十五錢、廿四冊(一ヶ年)前金壹圓とす、東京市外は別に一冊金五厘宛の遞送料を要す。

一、本誌第一卷(自第一號至十二號)第二卷(自第十三號至第廿四號)合本は、洋裝金字入の美本にして、定價各金五拾錢、遞送料金拾錢宛とす。

發兌

十月。	五日	十九日	廿六日		
十一月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十二月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價

一冊。六錢	郵稅。五厘	(但府內無郵稅)
十冊。五十八錢	郵稅。五錢	(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は 一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

(廿七字詰)

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌ハ今後女學校又ハ婦人會杯ヨリ每發兌十冊以上一纏ニ御注文ノ向ヘハ別ニ十冊每ニ一冊ハ無代ニテ進呈可仕候

明治二十二年十一月十五日印刷
明治二十二年十一月十六日出版

東京麴町區富士見町二丁目一番地
發行所 女學雜誌社

東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留
編輯兼發行人 巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷人 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month; *yen* 2.86 per annum, in advance.

KEdited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.